

目 次

ま え が き	1
第1章 調査の目的と意義	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査の意義	1
第2章 調査の計画と経過	2
2.1 調査計画	2
2.1.1 調査対象	3
2.1.2 調査項目	3
2.1.3 調査すべき事柄	7
2.2 調査組織	8
2.3 調査経過	9
第3章 検査問題の作成	11
3.1 問題作成の準備	11
3.2 問題作成の具体的方針	12
3.3 問題の作成	17
3.3.1 問題作成委員会	17
3.3.2 第一次予備テスト	39
3.3.3 第二次予備テスト	57
3.3.4 第三次予備テスト	59
3.3.5 できあがった問題	63
第4章 標本の抽出	106
4.1 調査対象と母集団の構成	106
4.2 抽出の方法	106
4.3 標本数の決定	108

4.4	学 校 の 層 別	109
4.5	学校および児童生徒の抽出	110
第5章 標 準 化		115
5.1	本 テ ス ト の 実 施	115
5.2	本 テ ス ト の 成 績	119
5.3	品 等 尺 度	120
第6章 結 果 の 検 定		124
6.1	検定のための再抽出——第二次標本の抽出	124
6.2	標 本 の 抽 出 検 定	127
6.2.1	抽 出 の 精 度	127
6.2.2	抽 出 の 検 定	128
6.3	検 査 問 題 の 検 定	130
6.3.1	妥 当 性 の 検 定	130
6.3.2	適 応 性 の 検 定	142
6.3.3	信 頼 性 の 検 定	154
6.3.4	選 択 肢 の 反 応 分 析	155
第7章 結 果 の 記 述		162
7.1	文章読解力の発達状況	162
7.2	文章読解力とそれに影響をおよぼすと考えられる要因との関係	167
7.2.1	性的な要因と文章読解力との関係	167
7.2.2	地域的な要因と文章読解力との関係	170
7.2.3	保護者の職業と文章読解力との関係	176
7.2.4	保護者の学歴と文章読解力との関係	179
第8章 結 論		183
8.1	文章読解力の発達について	183
8.2	標準化されたテストとしてのこの検査問題について	184
8.3	調査に対する反省	185

8.4	文章読解力の指導について	186
-----	--------------	-----

図

第2.1図	文章読解力の構造	4
第4.1図	標本数 $M=1000$ における変異係数と95%信頼度での信頼幅の分布	109
第4.2図	学校層別のための三角図表の一例	110
第6.1図	担任教師の読みの評価分布図	129
第6.2図	テストの得点分布図	131
第6.3図	テスト成績の正規性	132
第6.4図	担任教師の評価の分布の正規性	140
第7.1図	共通問題に対する正答率の学年比較	163
第7.2図	上位群・中位群・下位群の得点構造	166
第7.3図	男女別得点構造	170
第7.4図	地域別得点構造	176

表

第3.1表	各種客観的テストおよび論文体テストの比較	15
第3.2表	問題選定の基準	18
第3.3表	第一次予備テストの成績	40
第3.4表	各学年の正答率とその差(第一次予備テスト)	42
第3.5表	グルーピングをした学年の正答率と他との比較(同上)	45
第3.6表	上位群・下位群分析(同上)	49
第3.7表	選択肢の反応分析(同上)	50
第3.8表	第二次予備テストに採択した問題	56
第3.9表	第二次予備テストの困難度の予想	56
第3.10表	第二次予備テストの結果	58
第3.11表	第三次予備テストの結果	60
第3.12表	テスト成績と教師の評価との相関(第三次予備テスト)	60
第3.13表	上位群・下位群分析(同上)	61
第3.14表	選択肢反応分析(同上)	62
第4.1表	調査対象全児童生徒数	107

第4.2表	標本学校および標本児童生徒の割当	112
第5.1表	テストの検査時間	115
第5.2表	正答一覧表	119
第5.3表	テストの成績(本調査)	119
第5.4表	偏差値パーセンタイルの換算表	121
第5.5表	品等表	123
第6.1表	第一次標本と第二次標本の成績比較	125
第6.2表	χ^2 検定(第一次標本・第二次標本の適合度)	127
第6.3表	抽出の程度	128
第6.4表	全県と第二次標本の保護者産業分布の比較	128
第6.5表	担任教師による評価の分布表	129
第6.6表	得点分布曲線の正規性の検定	134
第6.7表	問題毎正答率学年比較	137
第6.8表	テスト得点と担任教師の評価との相関係数	141
第6.9表	上位群・下位群分析表	142
第6.10表	上位群・下位群分析で有意差のない問題	151
第6.11表	折半法による信頼度係数	154
第6.12表	リチャードソン・キューダーの公式による信頼度係数	155
第6.13表	選択肢反応分析	156
第7.1表	共通問題一覧表	162
第7.2表	共通問題に対する学年毎の正答率	163
第7.3表	上位群・中位群・下位群ごとの得点表	165
第7.4表	性別による成績の比較	167
第7.5表	男女別問題種別成績表	169
第7.6表	地域別成績表	171
第7.7表	地域別成績比較表	172
第7.8表	地域別問題種別成績表	173
第7.9表	地域別問題種別成績比較表	175
第7.10表	保護者の職業別成績表	177
第7.11表	保護者の職業による成績比較表	178
第7.12表	保護者の学歴による成績表	179
第7.13表	保護者の学歴による成績比較表	180

第 1 章 調査の目的と意義

1.1 調査の目的

この調査はつぎの二つの目的をもっている。

- (1) 本県児童生徒の国語の学力を調査し、その実体を把握すること。
- (2) 児童生徒の国語の学力を測定するための検査問題を標準化し、国語学習指導のための具体的な資料を提供すること。

1.2 調査の意義

現在 教育内容や方法について つぎのことが確認されている。教育内容を構成し、教育方法を決定するためには、その教育機関が存在する地域社会の現状と理想、および教育対象の実態が明らかにされねばならない。そして現に教育計画をたて、それを改善するために、また学習指導をより合理的な確実なものにするために、各学校、各研究機関で、その地域社会の教育課題や、教育対象である児童生徒の実態を把握するために、調査研究が行われている。当研究所でも発足当初より、県基準案作成の見地からこの二つのこと——教育のための地域社会調査と児童調査——を基本線として事業を進めつつある。国語学力調査は、この基本線にそって、本県児童生徒の国語学力の実態を把握しようとするものである。そしてここで把握された学力の実態を将来の各種調査や県基準案作成の際などの必要に役立てようとするものである。

この調査は、各学校・学級における教師にとっても価値ある資料を提供することができよう。教育課程の構成や改善のためにその学校・学級の児童生徒の実状を把握せよということはまことに正しいが、その把握する方法がかならずしも正当に理解されてはおらず、また具体的な調査方法や調査のための道具も確立され準備されているとはいえない。学習指導をより確実なものにし、個性的なものに具体化しようとしても、児童生徒の実態把握は、なにを、どういう方法でという最初の問題につきあたってしまう。この調査はもちろんこれ

らの問題について全面的にこたえようとするものではない。しかしこの調査の結果を利用することによって、その学校・学級の児童生徒の国語学力を、全県の児童生徒またはそれとほぼ同一の条件をもつと考えられる他の学校・学級と比較することができ、あるいはある児童・生徒が、国語学力のうちのどの面に欠陥があるか等も知ることができよう。さらに検査問題の作成の方法を確かめることによって、教師のテスト作成や評価についての技術を研究する資料にもなし得るであろう。これらは前項にのべた 目的 (2) についての意義である。

つぎに 目的 (1) と目的 (2) とが同時に満足するかどうかも確かめねばならない。全県の児童生徒の学力を測定しようとするとき、まず必要になるものは、なんで測定するか——測定のための物指しである。この物指しとしては標準学力検査がもっとも有力な力を発揮するわけである。いろいろの標準学力検査についてみたが、国語のこの種のテストでわれわれの応求に応ずるものが見当らなかつたため、検査問題をわれわれで作成し実施することにした。この際この検査問題に対する県下全体の児童生徒の反応が明らかにされるので、ぎゃくにこの検査問題を ある学校、学級の児童生徒に実施することによって、その学級の学力を県下全体の成績と比較することができる。したがってこの調査について、目的 (1) と見越 (2) の二つの意義をみとめることは可能である。

第 2 章 調査の計画と経過

2.1 調査計画

調査計画には 調査の対象、国語学力のうちの何について調査するのか——調査項目・それらの項目について何を明らかにしたいのか——調査すべき事柄・調査組織・調査の具体的な手順が含まれるであろう。また 結果の処理方法についても綿密に計画しておかねばならない。この章では 調査対象・調査項目・調査すべき事柄・調査組織についてのべ、 他は関係各章で明らかに

することにする。

2.1.1 調査対象

この調査の目的は 本県児童生徒の国語学力を測定しようとするものであるから、調査対象としては、一応小学校一年生より高等学校三年生までの児童生徒が考えられる。しかし調査期間・調査機構・予算などの条件から制約される面も強く考慮しなければならない。この調査では主として、調査機構の関係で対象児童生徒の範囲を縮小した。調査機構を広げないで、できるだけ所員だけによって進行させようと考えたのである。そして、小学校二・三・四・五・六年 中学校一・二・三年にとどめた。小学校一年を除外したのはつぎの理由による。

- (1) テストの方式を集団テストとした場合、小学校一年生がこの種のテストに適応できるかどうかについては、多くの疑問がある。
- (2) 小学校一年生には 入門期といわれる特殊な指導の方式が強調されているわけであるが、このことが示しているように 二年生以上とはいちじるしく異った要因を考慮しなければならないのではないかと。

以上のように、形式・内容のいずれから考えてみても、問題構造やテストの方式について、二年生以上のものとはきりはなして仕事を進めた方がよいように予想された。このため 小学校一年生はこの調査からのぞくこととしたのである。二年生については、上にのべた二つの点で疑問に思われる点がないわけではないが、予備テストの段階でいろいろ考えてみることにした。

2.1.2 調査項目

国語学力は 聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの四つの面と、これらの基礎としての文法理解が考えられねばならない。しかし、これらの事柄のすべてについて調査することは到底不可能である。前項でのべた各種の制約は、当然ここでも考慮されなければならない。そしてこの調査項目の範囲

を「読みの能力」に限定した。

“読みの能力”をつぎの立場で分析した。

A 文字・語いを認知する力

B 基礎的な読解力

B₁ 語法の理解力

B₂ 文を読みとる力

・文の事実を読みとって要約する力

・文の細部の関係を読みとる力

・文の中心思想や背景

になっている思想を読みとる力

・批判する力

・組織する力

・指示にしたがう力

・自主的に読む力

・はやく読む力

・音読の力

C それぞれの目的に応じる読みの力

C₁ 日常生活の必要のための読みの力

・みだしを読む力

・ざっと読みの力

・手紙・標語・ポスター・広告・時間表等を読む力

・報告・伝達のための音読の力

C₂ 研究のための読みの力

・目次・索引を使う力

・字引・百科事典・年鑑・年表を調べる力

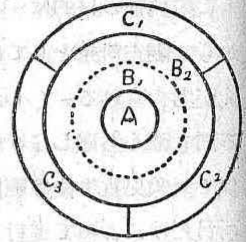
・地図を読む力

・一読して必要なところをさがしだす力

・図書館利用の力

C₃ 鑑賞や娯楽のための読みの力

第2.1図 文章読解力の構造



- 書物をえらぶ力
- 鑑賞の力
- 音読の力
- 読書の興味の範囲と深さ

これらの分析された能力のうちから、更に調査すべき項目を B₂ 文を読みとる力 に限定したのであるが、その理由はつぎのとおりである。

第一に item の数である。われわれが読字力を調査しようとするとき、ただ一つの文字を提出して、その一つの文字が読めるか、読めないかによつて、その子供の読字力を評価するものはいないであろう。かならず10なり20なり、目的によつては100字以上もの漢字が選定されることも当然である。ところが文章読解力の場合には、案外こんな点が見落されていることが多い。item の数が少なければ少ない程、その item の内容ははっきりした基準・理由によつてその背後にある多くの同種類の問題群を代表していることがいわれなければならない。その基準・理由がはっきりしていない場合には、item の数は無制限に増加してくることも考えられる。また信頼度の上からみてある能力や学力を検査する場合には少なくとも20以上の item が必要であるともいわれている。読みの総合学力などといって、多くの調査項目をもれなく含ませようとするれば、検査の実用性の上から各項目毎の item の数は極度に制限されざるを得なくなる。そのようにして検査されたいわゆる総合学力なるものは、われわれの場合、県基案作成のための資料として、あるいはそれを実際の学習指導に役立たせようとして、一体どれだけの力を發揮し得るであろう。(もちろん、たとえば選抜試験のようなある特殊な目的をもつたものは、総合学力を必要とすることもあるわけである。これらはすべてその調査の目的から規定されてくるものである。) item のとりかたをこのように考えてくると、検査の実用性の上から、どうしても調査項目をもっと整理するか、あるいは縮少する必要があった。

第二に、この調査の結果の利用の面から考えると、われわれがやろうとする調査は、いわゆる総合学力をおさえるということよりも、もっとはっきり分析された能力について児童生徒の反応をしりたいのである。そのような

ものでなければわれわれの想定する県基準案作成の際の資料として有効なものとはなり得ない。また指導に役立たせる意味から考えると、ある子供の学力の低いのは、文字が読めないことか、語いが貧弱なことか、または文字も語いも相当知っているが文が読めないのか、あるいは小説は読めるが社会科の資料は読めないというのか、そういうものもはっきり知ることのできるものが必要なのである。この目的(2)から考えた事柄は目的(1)と対立するものではない。

第三に、これだけの項目について調査しようするとき、いろいろな困難が予想される。それは困難というよりもむしろ準備調査すべきことといった方がはっきりする。たとえば文字、語いを認知する能力を調査する際に、文字を認知することと語いを認知することとの関係を明らかにしなければならない。たとえば“先生”が読めて“生活”が読めなかった子供は“生”を読めるとするか、読めないとするか。もしその字をふくむ語を一つでも知っていれば文字が読めるとしてよいとすれば、“先生”“生徒”“生活”“生長”“人生”とできるだけ多くの語を提出して、それらがみな読めないことが明らかにならないければ、“生”を認知できないとはいえないことになるのではないか。もしその字をふくむ全部の語を知っていなければ、その字を読めるといえないとすれば、また同様のことがおこる。このように考えてくると、文字が読めることは何によって判定したらよいのだろうか。また語が読めるということとどういう関係になるのであろうか。また実際に調査する際には、その文字を検査するためには、どの語で検査すればよいかということが解決されなければならない。また語いの検査にしても、日常生活にもっとも必要な語い、あるいは学習基本語いというようなことがまず解決されなければならない。完全なものを待っていてはなににもできないから、現在できる範囲内で最善の資料を活用し最善の方法をとればよいということであろうが、それにしてもなんらかの根拠はもちたいものである。

以上のことから われわれはつぎのように態度を決定した。

- 本年度は前記図式のB基礎的な読解力のうち B₂ 文を読みとる力 についてのみ調査する。

・この文章読解力の調査とともに、文字・語い・文法その他についての基礎的な資料を集め、来年度以降逐次調査を行う。（このためこの文章読解力検査と併行して、小学校検定国語教科書昭和26年度 10種について漢字調査をおこなった。）

更に文を読みとる力として考えられるもののうち、集団テスト、ペーパーテストの条件を考慮し、最後につきのように決定した。

調査項目 基礎的な文章読解力

- (1) 文の事実を読みとって要約する力
- (2) 文の細部の関係を読みとる力
- (3) 文の中心思想や背景になっている思想を読みとる力

2.1.3 調査すべき事柄

この調査の目的はさきにのべたが、その目的を達するために、どのような事柄について調査するかをもっと明らかにしなければならない。本県の児童生徒の国語の学力を測定し、その実態をとらえるのが目的であるとすれば、この目的にてらして、前項の文章読解力について何をみたらよいのか。われわれはつぎのように考えた。

(1) 各学年毎にどの程度の文が読めるか。

これは問題に対する反応をしらべて、学年毎に得点の平均と分散を知ればよい。これは同時に 目的(2)をも満足するであろう。

(2) 文章読解力はどのように発達しているか。

各学年の問題に共通問題をふくませ、その共通問題に対して学年毎にどのように得点しているかをしらべ、その平均と分散とを知って、全学年を比較すればよい。その際共通問題の困難度は、慎重に考慮しなければならない。

(3) 文章読解力とそれに影響をおよぼすと考えられる要因とは、どんな関係にあるか。

文章読解力に影響をおよぼす要因としては、いろいろのことが考えられるが、ここではつぎの事柄だけに限定した。

i 性的な要因と文章読解力との関係

ii 地域的な要因と文章読解力との関係

地域の環境的な条件のうち、学力にもっとも多く影響をあたえるものとして、文化度が考えられるが、文化普及度を客観的にとらえるために、市・町・村・人口の多少・産業構造によつてサンプリングする。

iii 家庭的な要因と文章読解力との関係

この調査では家庭環境としての要因のうち、保護者の職業と学歴をみることにした。家庭の文化度を客観的にとらえるものとして、上記の二つは比較的便利であると思われたからである。

2.2 調査組織

この調査は主として当研究所の事業担当責任者によってすすめられたが、計画案原案に対する審議や検査問題の作成など重要な段階で多くの人々の協力を得た。また全所員は計画案原案・調査過程におけるいろいろな問題についての審議・問題作成・標準化のための本調査・調査結果の審議などこの調査のすべての過程に参加した。その調査組織はつぎのとおりである。

1 原理委員 (五十音順)

遠藤 稔 (岩船郡岩船小学校長)

加藤 謙 (新潟大学教育学部教授)

小林 岩彦 (新潟大学人文学部教授)

品田 文松 (北魚沼郡中条小学校長)

根津 禎六 (教育庁指導主事)

山岸 清威 (教育庁指導主事)

2 問題作成委員 (五十音順)

風間 清 (新潟大学教育学部付属新潟小学校教諭)

斎木 直司 (新潟大学教育学部付属高田中学校教諭)

志田 耕吉 (県立新潟工業高等学校教諭)

関 平八郎 (新潟大学教育学部付属長岡中学校教諭)

田中 久直 (三条市立裏館小学校教諭)

中野 一松 (新潟市立新潟小学校教諭)

能 登 行 雄 (新潟大学教育学部付属新潟小学校教諭)

原 豊一郎 (新潟大学教育学部付属長岡小学校)

細 川 浩 一 (新潟大学教育学部付属高田小学校教諭)

山 岸 浩 (新潟市教育研究所)

3 所内で討議にあたったもの

吉 成 三 雄 平 松 周 治 板 谷 越 陽 吉

古 田 芳 雄 小 島 甚 作 武 藤 淳

北 原 戊 平 牧 田 利 平 長 谷 川 敏 雄

日 浦 儀 一 郎 小 竹 省 三

4 事業担当責任者

小 竹 省 三 北 原 戊 平

5 標本調査設計

武 藤 淳

6 本調査実施のため出張したもの

古 田 芳 雄 小 島 甚 作 武 藤 淳 北 原 戊 平

牧 田 利 平 長 谷 川 敏 雄 日 浦 儀 一 郎 小 竹 省 三

7 報告書執筆

小 竹 省 三 北 原 戊 平

2.3 調査経過

この調査が計画され 文章読解力についてのみ一応完結するまでの、主な経過はつぎのとおりである。

昭和26年

1月5日 第一次計画案作成

1月6日 第一次計画案について所員会議で検討

1月7日～14日 北原・小竹両所員東京に出張、文部省・国立教育研究所・国立国語研究所等に出向いて、第一次計画案について意見をきく

3月10日 調査資料として、小学校検定教科書10種類について、漢字調査に着手

- 4月21日 第二次計画案作成ならびに問題作成委員会に提出の資料作成
- 4月23日 第二次計画案について所員会議で検討
- 5月7日 第一回問題作成委員会開催
- 6月10日 問題作成委員より試作問題到着
- 6月18日 第二回問題作成委員会開催
- 7月2日 第一次試作問題作成
- 7月9・10日 北原・小竹両所員予備テスト実施校に出向き、実施につき打合せ
- 7月11～14日 第一次予備テスト実施
- 8月25日 第一次予備テストの結果処理完了
- 8月27日 第一次予備テストの結果および第二次予備テストの実施校につき、所員会議で検討
- 9月15日 第二次予備調査問題作成
- 9月17・18 北原・小竹両所員第二予備テスト実施校に出向き、実施につき打合せ
- 9月19～21日 第二次予備調査実施
- 11月7日 第二次予備テストの結果処理完了
- 11月11～13日 第三次予備調査実施
- 12月17日 本テストのための問題原案作成
- 12月19日 本テストのための問題原案につき所員会議で検討
- 12月22日 本テストのための問題作成完了
- 昭和27年
- 1月5日 本テストのための問題印刷完了
- 1月8～17日 本テスト実施
- 1月21日 本テストの処理に着手
- 3月12日 学力検査の手引完成
- 10月17日 当研究所研究発表大会に結果報告
- 12月29日 本テストの結果に基づく検討を完了、報告書作成に着手
- 3月20日 報告書作成完了

第3章 検査問題の作成

3.1 問題作成の準備

問題作成のために準備しなければならないものや、調査して明らかにしておかねばならないものはすいぶん多くあるわけであるが、われわれはそれらのうちから、つぎの事柄について準備しようとした。

(1) 児童生徒の読書経験についての資料をあつめ読書領域を知る。

(2) 文字や語いについて

i 必要度

ii 児童生徒の習得している程度

について調査をしまは資料をあつめる。

(3) 各地で行った文章読解力または国語学力検査を資料として集める。

これらのことと平行して、テストについての理論的な研究もすすめた。

(1)について

学習指導要領・教育心理の書物、教育課程構成や学習指導のために行われた各種の調査、読書指導関係の書物等を参考にして考えた。特に本県の児童生徒について調査してみることはしなかった。問題文をえらぶときに、どのような種類の、どのような内容の文をえらぶかはきわめて重要なことである。その範囲がある特殊な領域のみにかたよったり、あるいはその学年の読書生活ではまったくみられないような高いまたは低い段階のものであったりすれば、問題の妥当性・信頼性が低くなるであろうことは当然予想される。この資料は問題作成の場面で上にのべたような意味で利用された。

(2)について

i 文字や語いの必要度については、小学校国語教科書(昭和26年度)10種類について漢字調査を行った。この調査は簡単にいえば“どんな漢字がどんな語いとして各学年にどのような度数で提出されているか”についてみるものといってよい。漢字は他の漢字やかなと一しょになって語いを構成している。したがって漢字のみを単独にきりはなしても、その漢字のはたら

きをみることはできない。そこで漢字を語いを構成している要素としての観点からひろいだしたものである。この調査は昭和26年3月よりはじめて昭和27年8月に一応の集計をおわった。

語いについては、上記の漢字調査によって一部資料を得ることができる。

その他基本語い・児童語いに関するすでに行われた調査資料を入手し参考にすることができた。それはつぎの書物である。

- ・阪本一郎 日本語基本語彙 幼年の部
- ・長野師附小 児童の語彙と国語指導
- ・国際文化振興会 日本語基本語彙

文章読解力を検査しようとするとき、たとえばある問題についての誤答が、文字が読めないための誤りであるか、文字は読めても語いがわからないための誤りであるか、あるいは文字・語いともによく知っているが文章がわからなかったのか、いろいろの場合が考えられる。文字・語いは理解しているが文章が理解できないということが文章読解力の検査である。そうでなければその検査は実施者の意図に反して、文字力検査や語い力検査になってしまう。われわれは問題文を構成する文字や語いにも注意をはらったが、上記漢字調査や参考文献はそれらに有効に使用された。

語法についてはほとんど準備ができなかった。

ii 児童生徒の習得している程度についてはすでに行われた諸種の調査結果を入手することができた。語法については接続詞使用の発達状態を知るための調査を行ったにすぎなかった。

3.2 問題作成の具体的方針

検査の結果明らかになった事柄が、信頼できるかどうかを決定する最も重要な要因の一つとして検査問題が信頼できるものであるかがあけられる。検査問題は十分に妥当性・適応性・信頼性をもったものでなければならない。このためつぎのような方針によって検査問題を作成した。

(1) 文章の内容は当該学年の児童生徒の生活経験や読書領域に適合していること。

- (2) 文章の内容はかたよらず、ひろく各種の読書領域にわたっていること。
(3) 問題文を構成している漢字や語いが、当該学年の児童生徒の学力に適合していること。

さきにも述べたように、この調査は文章読解力について行うものである。

そこで漢字や語いによる抵抗をまったくのぞかなければならない。このため文章は平易な漢字・語いによって表現されているものをえらび、むづかしいと思われるものは、平易なものにいかえ、どうしてもそれができない場合にはルビをふつたり 註をつけたりした。

またぎゃくに あまり簡単すぎるのも時には困る場合がある。たとえば平かならみな読めるからといって、中学生用の問題を全部平がなで表記したらどうであろうか。またことばに全部註をつけたらどうであろうか。漢字や語いが読みの速さや理解を促進している面も大きいのであるから、その抵抗をなくするとともに、適切な使用も考えねばならない。

このためにはつぎの資料を参考にした。

- ・新潟県教育研究所 小学校国語教科書漢字語い別調査
- ・阪本一郎 日本語基本語彙 幼年の部
- ・長野師附小 児童の語彙と国語指導
- ・国際文化振興会 日本語基本語彙
- ・京都府教育研究所 国語能力調査

この調査の途中あるいは後にあらわれたつぎの資料も 検定のために参考にされた。

- ・文部省 児童生徒の文字を書く能力とその基準
- ・北九州五市教育研究所 漢字読み書き能力調査

- (4) 問題文の語法が当該学年の児童生徒の学力に適合していること。

このことについての具体的な基準は得ることができなかった。そこで一応国語教科書の文章の語法をこえないこと、そして予備テストによって実験の児童生徒の反応をしらべて、不適当なところがあれば修正することにした。

- (5) 調査項目としてめざしている三つの能力がはっきり測定できるものであること。

この三つの能力について重みをかけることはできないと思われるので、テストを三部にわけて

テストその一 文の事実を読みとって要約する力

テストその二 文の細部の関係を読みとる力

テストその三 文の中心思想や背景になっている思想を読みとる力

とした。問題数はテストその一・その二・その三のそれぞれについて10題ずつとし、計30題にすることにした。

(6) 文章にかかれた、事実以外の被験者の意見や知識によって答が左右されたり、また問のなかに答に対する暗示をふくんでいるようなものでないこと。

(7) 問の形式がはっきりしていて、何を問われているのか迷うことがなく、また解答のしかたがわからないために誤ることがないようにする。

テストの方式には多くのものがあるわけであるが、それらを大した考慮もはらわずに使ったら、大きな誤りをおかす結果になろう。それらのうちどれがわれわれの目的にあっているかを比較検討する必要がある。また解答のしかたがわからないために誤りをおかすのをふせぐためには、練習によって解答のしかたを説明し理解させればよいと考えられるが、あまり多くの方式をとると、練習の数がそれにつれて多くなる。その無駄をはぶくためには、もっともよいと思われる方式を数少くえらばよいと考えられる。

客観テストの問題形式にはいろいろのものがあるが、再生法・真偽法・完成法・選択法・組み合わせ法・配列法などはその主なものであろう。これらのうちでわれわれの要求にもっとも適合したものとして、多肢選択法をとることにした。

第3.1表はグリーン(E. B. Greene)による比較であるが、この表からもっともよいと思われるものをあければ、組み合わせ法と選択法がえらばれる。そして選択法が組み合わせ法より劣っている点について考えると、1. 構成の容易さ は問題作成者であるわれわれの問題であって、この調査の場合テスト本来のもつ欠点としてそのテストを否定する条件にはならない。また 4. 余白の大小 は実用性に関係するが、これもそう大きな条件にはならないであろう。9. 再生的テストの点はわれわれの意図は理解力をみようとするもの

であるから無視してもよいであろう。ただ 7 複雑な思考過程をみる点が劣っているとされていることは重要である。しかしこの点については異論がある。たとえば織田正氏はこの点についてつぎのように述べている。(註2)

第3-1表 各種客観的テストおよび論文体テストの比較 (註1)

可変選択肢法の長所……この形は弁別力、推理力、解釈力、応用力等高度の精神的過程だけでなく、単独の事実についての記憶力をテストすることが可能である。

	真偽法	完成法	選択法	組み合わせ法	排列法	論文体
1 構成の容易さ	2	2	3	2	2	1
2 指示の理解	1	1	1	2	2	1
3 所要時間	1	3	1	1	1	2
4 余白の大小	2	2	2	1	3	1
5 採点の容観性	1	2	1	1	1	3
6 推量が少ない	3	1	1	1	1	3
7 複雑な思考過程	2	2	2	1	1	1
8 問題の明白	2	3	1	1	1	2
9 再生的テスト	3	2	3	2	2	1
10 結果の分析	3	2	1	2	2	1

したがってこれは各種の教材に基づいていろいろの型をテストするのに役立つもっとも融通のきくテスト法である。

※ 三段階品等で1が最もよく、2、3はそれにつぐもの。

組合せ法の長所……組合せ法が高

度の精神過程の成果をテストするのに適するか又は単なる事実的知識を対象とするにすぎないかについては議論がある。組合せ法はその性質上、一方に短い名称、日付、概念的な言葉、極度に簡潔化された記号等をもっているため、もしこのような凝縮された概念間の関係について立言することは高度の精神過程に含まれないとすれば、当然この方法は事実的知識に関係するだけにすぎない。しかしこの議論は提出される概念の内容と組合せ法の構造上の問題に依存する訳で、作製者の考案によってかなり高度の精神的過程についてもテストしうるであろう。

この記述では等しく長所として述べられているが、複雑な思考過程をみる点ではむしろ選択法の方がよいとしている。一般にはこの見解がとられているし、またわれわれもそのように考えた。

また同氏の記述に 組合せ法の短所として

註1. 日本教育大学協会 国語科教育に引用

註2. 教育大学講座第32巻 教育評価

- 被験者にとって解答の仕方が容易に理解されない。
- 低学年においては正しい組合せの番号を記入させるかわりに線で結ばせる方がよいが、この場合は採点に際しかなり抵抗を感じるであろう。

とのべている。

以上のような考察の結果 問題形式としては多肢選択法をとることにした。

(8) 採点者の主観によって採点が動揺することがないこと。

前項にのべた多肢選択法は十分この意図を満足してくれると思われる。

個々の問題について

ここでは その一・その二・その三ごとにどのような注意をはらったかということにふれるにとどめる。

その一(文の事実を読みとって要約する力をみるもの)

- (1) 主意文(Key-Sentence)をみつけさせる。
- (2) 主要な文(Main Topic Sentence)と副次的な文(Sub Topic Sentence)とを区別させる。
- (3) 重要語(Key-Word)をみつけさせる。
- (4) 主人公をみつけさせる。
- (5) 主人公の動作をみつけさせる。
- (6) 問題や題目に関係のふかい事柄や語句をみつけさせる。
- (7) 文に題目をつけさせる。

その二(文の細部の関係を読みとる力をみるもの)

- (1) 事物の名・数・場所・時間・細かな性質・状態などについて答えさせる。
- (2) 主要な文(Main Topic Sentence)と副次的な文(Sub Topic Sentence)との関係・副次的な文(Sub Topic Sentences)相互の関係をみつけさせる。
- (3) ある事柄を証拠づけるこまかな語句や表現をみつけさせる。
- (4) 代名詞が何をあらわすか考えさせる。
- (5) 接読のことば(そして その上 けれども等)をもとにして上の文と下の文の関係を理解しているかどうかきく。

- (6) 文中の人物について、それぞれに関係のふかい事柄や語句をみつけさせる。
- (7) 原因と結果・理由と結論をさがさせ、そのどちらかを空白にしてその部分を答えさせる。

その三（文の中心思想や背景になっている思想を読みとる力をみるもの）

- (1) 主意文（Key-Sentence）をみつけさせる。
- (2) 主要語（Key-Word）をみつけさせる。
- (3) 主人公の気持をさがさせ、それがどのような語句にあらわれているかを見つけさせる。
- (4) 結論となる文や語句をみつけさせる。
(1)・(2)と重なることが多い
- (5) “特に・いちばん・もつとも・主として”などのことばによつて修飾されている語句や事柄をみつけさせ、そのわけを考えさせる。
- (6) 主人公や事柄に対する作者の意見をさがさせる。ぎゃくに作者の意見がどのような表現をとっているかみつけさせる。

3.3 問題の作成

問題を作成するためにつきのような手順によつた。

まず問題作成委員会をひらき、原理委員および問題作成委員により調査の基本方針および問題作成の基準について審議する。 つぎに問題作成委員により試作問題を作成する。 試作問題について予備テストをおこない、問題を修正し決定する。 予備テスト以後の段階は研究所員のみで担当した。

3.3.1 問題作成委員会

昭和26年5月7日 第一回問題作成委員会をひらいた。 この会議で研究所で作成した原案に基づいて、調査の基本方針を検討し問題作成の方法について協議した。 基本的な方向を決定してから、さらに小学校・中学校の二分科

会にわかれて具体的な打ち合わせをおこなった。各委員は担当した問題を作成し勤務校で所要の実験をおこなって6月10日まで 問題および資料を報告することになった。このようにして資料となる問題 120 を得た。

6月18日 第二回問題作成委員会をひらき、120題の問題資料のなかから第一次予備テストの問題を決定した。

第一次試作問題

この検査問題は最終のものは学年別検査問題を考えているのであるが、問題の難易度の判定がきわめて困難であるため、第一次予備テストでは、それぞれの問題が学年毎にどのような難易度をもっているかをみることにした。そこで第3.2表の基準によって60題の問題を選定し、小学校二年より中学校三年までの全学年について予備テストを行った。

第3.2表 問題選定の基準

予想学年	小1	2	3	4	5	6	中1	2	3	高	計
その一	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
その二	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
その三	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	60

※ 予想学年とは その学年で正答率50%の意味である。

問題 (原文たて書き、ルビ省略)

テストその一

文をよんで、その文にかいてあることのうち、いちばんだいじなものなにか、かんがえるもんだいです。

一 これは まさおさんの えほんです。えほんには きしゃのえが かいて あります。

1. きしゃのこと
2. えほんのこと
3. おもしろい おはなしのこと
4. ふねのこと

5. まさおさんのこと

二 ゆきが ふりだしました。 たかい 空から あとから あとからと まいおりてきます。 みているうちに やねも のはらも まっしろに なりました。

1. さむいこと
2. のはらのこと
3. やねのこと
4. 空のこと
5. ゆきのこと

三 ねこの たまは このごろ げんきが なくなりました。 ごはんを たべないで、 こたつの 上に じっとして ねていたり、 したを だしたりして います。

1. ごはんをたべないこと
2. ねこがしんだこと
3. げんきがなくなったこと
4. したをだしたりしていること
5. じっとしていること

四 きしゃのじかんが きたので、 まちあいしつは だんだん にぎやかに なってきます。 にもつを しょつた 男の人、 きれいな ふくを きた 女の人、 ふくろをさげた おじいさんなども はいってきます。

1. にもつをしょつた男のこと
2. きれいなふくをきた女のこと
3. ふくろをさげたおじいさんのこと
4. きしゃがきたこと
5. だんだんにぎやかになってきたこと

五 ポストに 入れた 手紙は ゆうびんやさんが あつめて ゆうびんきょくにもって いきます。 それから きしゃに のって とおくに いる 人の ところへ いきます。

1. ポストのこと
2. とおくにいる人のこと
3. ゆうびんやさんのこと
4. 手紙のこと
5. きしゃのこと

六 おとうとは ことしから 学校へ あがりました。 このあいだまで よく ない
ていたので、学校へ つれて いくのに こまるだろうと おもって いましたが、ま
いにち ぼくと いっしょに よろこんで 学校へ いきます。

1. つれていくのにこまること
2. ないてばかりいたこと
3. よろこんで学校へくること
4. 学校へあがったこと
5. 学校へいくときのこと

七 ある夜あけまえのことでした。 あたりはまだ暗くて しいんとしていました。
けれども遠くの山山のいただきは もう朝日がさして、それが雪にうつり、このよのけ
しきとも思われぬほど うつくしいすがたで、すんだ青空にうつしだされてきました。

1. 青空のうつくしさ
2. 夜あけまえの山のうつくしさ
3. 朝日のさしているよろす
4. このよにないけしきのこと
4. しいんとしていること

八 このあいだから三日おきぐらいに降りつづいた大雨のために、草も木も人も、すっ
かりいやになっていたところでした。 けれどもきょうこそはさすかの雨も降りあきた
のでしょう。 小鳥の声がはればれときこえます。

1. さすかの雨も降りあきたこと
2. 大雨でいやになったこと
3. 三日おきぐらいに大雨が降ったこと
4. きょうは雨がはれたこと
5. 小鳥の声がきこえること、

九 一八一四年にドイツ人のケーニヒが じょうぎの力で 動かすいんさつ機を發明しま
した。そのころ 新聞は手で動かすきかいですっていましたが、このケーニヒのきかい
を使うと 一時間に千百まいもすれました。これはそれまでの四ばいも多くすれたので
す。

1. 新聞のできたのは一八一四年だということ
2. むかしの新聞のすりかたのこと
3. 新聞をするいんさつ機のこと

4. ケーニヒの発明したいんさつ機のこと
5. 新聞は一時間に何まいすれるかということ

十 ボウボウと鳴くのを よくだれでも フクロウだと思っているらしいが、あれはアオバズクといってフクロウの四分の一の大きさしかない。青葉のころ日本へわたってくるミミズクだからアオバズク、ズクとはミミズクということだ。わが国ですを作って子供を生む。そうして秋になると親鳥も子供も南へ去ってしまう、

1. フクロウはわたり鳥でないこと
2. アオバズクという鳥のこと
3. 鳥の名はまちがいやすいこと
4. フクロウはアオバズクより小さいこと
5. ボウボウと鳴くのはフクロウだということ

十一 機械の発達はたちまち鉄と石炭の必要をよびおこした。石炭をほりだすためには機械がなければならない。そして機械を作るためには鉄がなければならない。また鉄鉱をほりだしそれを鉄にするには石炭がなければならない。さらにその機械を動かすには石炭が必要になった。

1. 機械の発達は鉄と石炭を必要とすること
2. 機械がないと石炭がほれないこと。
3. 機械を動かすには石炭が必要であること
4. 鉄鉱を鉄にするには石炭がいること
5. 機械を作るには鉄がいること

十二 「はえ」はうるさくても 人をさしたりないたりしないから、直接人に苦痛を与えることは少いけれども、「か」は人をさしたまなくので、その点だけいえば「はえ」よりもたしかにうるさくいやな害虫です。夏の期間中人が「か」のために仕事のじゃをされることは大したものですが、

1. 「はえ」はうるさい虫であること
2. 人は「か」のために仕事のじゃまをされる
3. 「はえ」はうるさいが「か」よりまだましだ
4. 「か」はいやな害虫である。
5. 夏は「か」のために仕事のはかどらない季節である

十三 電話をおひきになりたいという皆さまの申込みは、すでに五〇万もたまつていま

すが、本年度の資金ではその二割でさえもつけがたい状況です。そこで電気通信省では、一本でも電話をふやす方法として、一八〇〇円でひけた電話を四月から四三〇〇円にしたのですが、これでも皆様の要求にはそえかねますので、やむを得ず、今回新たに設備費の一部を出していただくことになりました。この方法によりましても、いつでも電話がひけるのではなく、工事上さわりないこと、申込み順によることなどはいままでと同じですが、電気通信省は「すぐひける電話」を目標として努力しますから、お力ぞえねがいます。

この広告はどんなことをしらせようとしたのですか。

1. 電話の料金の上がったということ
 2. 電話をひく料金を上げたが、申込みの全部をうけつけるわけにはいかないこと
 3. 新しく電話をひく人には設備費の一部を出してもらうことにしたということ
 4. 電話をすぐひけるように努力しているから、しばらくまってほしいこと
 5. 電話をひきたいという申込みは多いが費用がたりなくてこまっているということ
- 十四 かれらは長い山脈のうねりを見つめた。そのぎざぎざした連峯のかなたの深い夜をのぞいた。そこにはまだ星がかすかにまたたいていた。——しかし富士の姿はどこにもない。その時一人の船員がさげんだ。

「ああ、あなたの目のつけ所が低く過ぎますよ。もっと高い所をごらん下さい。もっと高い所を」と。かれらは高く高く空のまん中近くまで目を上げた。そのせつな あけぼのの色で幻の連華のつぼみのようにうすく染つた偉大な山頂が目に入った。その壮观にかれらは沈黙してしまつた。太陽の光線が地球の丸みを越え、暗い山脈を越え、一見星まで越えて山頂に達すると、万年の雪は見る見る黄色色に変わり白色に変わる。

1. あけぼのの富士の美しさ
2. あけぼのの富士山の頂の大きいながめ
3. 富士山の頂の雪の美しさ
4. 長い山脈の上にずっと高くそびえている富士のようす
5. 富士山の雪の色の变化するながめ

十五 新聞と日常生活の結びつきは緊密であり、文化国民にとって新聞は空気と水につく生活上の必要物だといつても、必ずしも不当ではあるまい。われわれの知識や思考や行動はしらずしらずのうちに新聞によって影響されている。

1. 文化国民の生活には新聞は必要なもので、人の考えや行動はその影響をうけてい

ること

2. 新聞がないと生活できないこと
3. 空気や水が生活上必要であると同じ意味で新聞も必要であること
4. 新聞はわれわれの生活を支配していること
5. 新聞と日常生活とは深い関係があること

十六 学校の規則その他いろいろな規則を自由の束縛であるというものがある。汽車は一定の線路のみを走り、一定の駅のみに止り、定められた時刻にのみ発車する。そこには厳重な束縛がある。われわれはその線路を自由に選び必要な駅に自由に下車してきとらな時間に自由にのる。自由に走らないからこそ自由に利用できるのだ。

1. 規則はわれわれを束縛するものであること
2. 汽車は定まった線路を走り、定まった時刻に走ったり止まったりして、人に自由をあたえないこと
3. われわれの行動を勝手にさせないような規則が、実はわれわれに自由をあたえていること
4. 汽車はどこでもいつでも自由に走らないから自由にこれを利用することができること
5. ほんとうの自由はなかなか得られるものでないこと

十七 人間はいつでも一步でも進歩しようとしています。少しでも前進するところに人生の楽しさがあります。だれでも新しいものが好きですが、新しくなろうとするのは一つの進歩にはかありません。その進歩はたゆまぬ心によつて達せられます。たゆまぬ心というのは、人間をして仕事に熱中させ知らず知らずの間に一步一步と高い位置にみちびいていく心です

1. 人間はいつも進歩しようとしていること
2. 人生の楽しさは一步一步前進することにあること
3. 新しくなろうとするのは一つの進歩であること
4. 人間の進歩はたゆまぬ心によつて達せられること
5. 人間はだれでも新しいものが好きであること

十八 電車の運転手はいつも信号に注意し責任をもつて運転に従事しなければならない。友だちとの話に気をとられて事故を起こしたり、不注意で人をひいたりすると法律によつて罰せられる。しかし多くの運転手は法律上の処罰を恐れてではなく、たくさんの人命をあずかる責任の重大さを感じて、自らすすんで注意に注意を重ねいやしくもあ

やまちが起らないように気をつけて電車を運転しているだろう。それらの運転手は法律上の責任を道徳的に守っているのである。

1. 電車の運転手は注意しなければならないということ
2. 道徳上の責任と法律上の責任は同じであるということ
3. 不注意で人をひくと罰せられるということ
4. 人の命は大切であるということ
5. 運転手は法律上の責任だけでなく、道徳上の責任も守っているということ

十九 くさむらに足をなげだしていると、あたりが死のように静まりかえつているのに気がついた。夜のろしみつ時のおもてに「真昼の魔が時」という沈黙のふしぎな時刻があると聞いたことを思い出した。この静かさの中でじっとしていると、若草のかおりにからだも染まってしまうように感じた。

1. くさむらに足をなげだしたときの快さのこと
2. ま夜中のくさむらのふしぎな静かさのこと
3. ま昼中のくさむらのふしぎな静かさのこと
4. 若草のかおりがあたりにただよってこころよいこと
5. ま夜中の若草のかおりは特別であること

二十 思いやりというものはいわゆる同情とは少しちがう。同情というものは不幸な者とか弱者に対して持つ感情であるが、思いやりは之に限らない。不幸な悲しみに対してばかりでなく、幸運や喜びに対する同感をもふくむ。相手の立場になってみることのできる心のゆとりである。

1. 同情も思いやりもともに大切である
2. 思いやりの方が同情よりも広くて大きい
3. 人として心のゆとりのあることが大切である
4. 同情の方が思いやりよりも広くて大きい
5. 思いやりも同情も同じことである

テストその二

一 こやぎは こやを とびだしました。つなが くびに ついて いました。ながい つなです。それを みつけて おんどりが ほしって きました。

こやぎは くびに なにを つけて いましたか。

1. かわいいくびわ

2. ちいさなすず
3. ながいつな
4. あかいリボン
5. あおいくさ

二 ボン、ボン、ボン、とけいが このつ ろちました。まさおは、ねどこで 大きな目を ばちばち させています。あしたは いなかの おじさんの うちへ いくので、うれしくて ねむれないのです。いもろとの みちこは となりで もう すやすやと ねむって います。

いもろとは どうして いますか

1. うれしくてねむれません
2. いなかのおじさんのうちへいきました
3. とけいをきいています
4. ねどこで目をばちばちさせています。
5. すやすやねむっています

三 川の 上を すずしい かぜが わたって きます。そらでは おほしさまが おはなしでも しているように ぴかぴか 光って います。どこからか 「ほう ほう ほたる こい」と、ほたるを よぶ こえが きこえて きます。

ぴかぴか 光っているのは なにですか

1. 川の水
2. すずしいかぜ
3. ほたる
4. おほしさま
5. おつきさま

四 「まさお。」と よばれて おとろさんの おへやへ いきました。おとろさんの つくえの 上には しんぶんが ありました。おとろさんは あざから はがきを かきつけて いらっやいます。

まさおが おへやに いったとき、おとろさんは なにを していらっやいましたか

1. しんぶんをよんでいた
2. はがきをかいていた
3. 本をよんでいた
4. 「まさお。」と よんだ

5. おへやでねていた

五 「みつばちさん、こんにちわ。」

「やあ、ちょうちょさん、こんにちは。」

「あなたは いつも はねを ぶんぶん ならして いそがしそだね。」

「ぼくは からだの 大きさに くらべて はねが 小さいので、はやく はねを うごかさないと とべないんだよ。」

「まあ そうなの。わたしたちは いじわるなものに みつからないように、大きな はねで そっと とぶのよ。」

ちょうちょの はねは どうですか。

1. からだの大きさにくらべて小さい
2. まっしろできれいだ
3. ぶんぶんいそがしそだね
4. いじわるなものにみつからないようにそっととぶ
5. はねをはやくうごかしてとぶ

六 まっ黒な 空から たえまなく ふってくる 雪が まどの ところへ くと 電とらの 光で まっ白に 見えます。ちらちらと たのしそりに ダンスでも しているようですが、一つの 雪だけを見ると 思ったより はやく すーっと すいこまれるように おちて きます。

ふってくる 雪が まっ白に 見えるのは なぜですか

1. まっ黒な空からふっているから
2. まどから見るから
3. ちらちらとたのしそりにふっているから
4. 一つの雪だけ見るから
5. 電とらの光にてらされるから

七 けさから 風が強くふきだした。教室にはほこりがはいってきて、やすみ時間ごとに ぬれぞうきんでつくえをふいた。

きょうは五人やすんだ。かぜをひかないようにと 先生からちゅういがあった。よくうがいをしょうと、みんなで話しあった。

先生のちゅういはつぎのうちどれでしたか

1. 風が強くふいてきたこと
2. ぞうきんでつくえをふくように

3. よくろがいをするように

4. 五人やすんだこと

5. かぜをひかないように

八 ローレンス先生のおとなりに住んでいられるアレンさんはお医者さんでしたが、今はしごとをむすこさんにゆずって、毎日庭でばらの手入れをしたり、しずかなへやで本を読んだりしています。

ばらの手入れをしたり本を読んだりしている人はだれですか

1. アレンさん

2. ローレンス先生のむすこ

3. アレンさんのむすこ

4. ローレンス先生

5. アレンさんのとなりの人

九 つきみそらに 明かるい 川のどて

風も吹かない しずかな夕ぐれだ。

つきみそらが 川ぞこに

あざやかな色でしずんでいる。

どんなところに つきみそらがさいっていましたか。

1. 川ぞこ

2. はしのそば

3. 夕ぐれの小道

4. 川のどて

5. 川の上にながれて

十 大きいしゃもじと小さいしゃもじで「よいしょ」とおひつに移しました。こんどは大きなしゃもじだけでおひつに移しかけたとき、しゃもじがかまのふちにあたって、ごはんが外へこぼれてしまいました。

「あれ あれ」と いいながら母がきました。

「ごめんね。ころやったとき ちょっとあたってしまったのよ。」

といつておわびしました。

ころやったときというのはどうしたときですか。

1. 「よいしょ」とおひつにうつしたとき

2. ごはんが外へこぼれたとき

3. 大きなしゃもじだけで移しかけたとき

4. 大きいしゃもじと小さいしゃもじで移しかけたとき

5. しゃもじがかまのふちにあたったとき

十一 この間まで菜の花と麦とで美しいおりものようだった畠から、菜の花の黄色がきえて いちめんにはれた海のような青い色がつづいている。この山の上から見おろす村のながめは ほんとうに美しい。

青い色がつづいているのはなんの色ですか。

1. 青い海が見える色

2. 畠や野原の草の色

3. 村の青くしげった木の色

4. 麦の色

5. 空の青い色

十二 風向きでも天気を知ることができる。むかしは旗などで風向きを知ったが煙もよい目安になる。浅間山ふきんでも煙が東になびくと晴、西になびくと雨といっている。しかし東風のときでも天気かわるくならないことがある。つまりこの方法は高い雲のようすをみるのがたいせつで、 のときでも巻き雲などが西に流れていると天気はつづくものである。

この文の のなかにはつぎのうちどれをいれたらよいでしょう。

1. 北風

2. 西風

3. 東風

4. つよい風

5. よわい風

十三 春を待ちかねた心が 鮮かな新芽の色を心ゆくばかり見まもるひまのないほど、速に伸び育ち色を増していくのが日本の新緑である。ところが、ヨーロッパの新緑はちようど時計の針を見まもるような感じを与える。新芽は育っているに違いないし一月もたてば変りもするが、けっして私どもの胸をうつ変化を示さない。

紅葉もまたそうである。八月にはもう黄ばんだ葉がからからと音をさせている。しかし つやのない黒ずんだ緑はあいかわらず陰うつに立っている。そしていつ変るともなく次第に色あせて弱々しい黄色に変っていく。あらゆる落葉樹の葉が黄色になるまでの間、人の目を見はらせるということがない。

時計の針を見るような感じとはどんなことですか。

1. 時計の針の動くように正確に時期をちがえずに緑となりまた紅葉となる。
2. 時計の針の動きを見るように緑や紅葉になつていくありさまがこまかくわかる
3. 時計の針の動くように緑や紅葉になつていく変化のしかたがはやい、
4. 時計の針がわずかずつしか動いていないように緑や紅葉になつていく変化が急でなくわずかの間ではわからない
5. 時計の針の進むように緑になり紅葉になるのが休みなくつづき心ゆくばかりながめるひまがない

十四 悪い書物を読むことは、そのこと自身無益であるばかりでなく、悪い書物を読んでいるうちには、善いものと悪いものとを区別することができなくなつてしまう危険がある。ひとはただよりよいものを読むことによつて、善いものと悪いものを見分ける眼を養うことができるのであつてその逆ではない。

その逆ではない というのはどんなことですか。

1. よい書物とわるい書物を見分ける眼を養うことが先に必要でその結果しぜんによりよい書物が選べるようになる。
2. よい書物とわるい書物を見分ける眼をもつてさえいればわるい書物も危険でない
3. わるい書物だけを読むと よい書物とわるい書物とを見分ける力がつかない
4. よい書物とわるい書物とを見分ける眼をもつていればわるい書物もためになる
5. ただよい書物を読むということが必要であるのではなくてよい書物とわるい書物とを選ぶことのできる眼を養うことの方が必要である。

十五 皇太后さまのご葬儀の式場で私をもつとも感動させた光景は、白錦におおわれたお棺のほの見えるお馬車のあとを、天皇が徒歩で葬場殿への玉砂利の道をたどられるお姿で、それは梅雨ぐもりの空の下、豊島岡の周囲の樹々の緑でおおわれた風景のなかで、しいんとしたうれいをただよわせた。そのとき貞明皇后はただ母として万人とかわりなく、天皇もまた母を葬る一人の息子のお姿であるように拝された。

天皇もまた母を葬る一人の息子のお姿である とはどんなことですか。

1. 天皇のお姿はたつた一人の息子が母を葬るときのようにおいたわしかつた
2. 天皇は母であられる貞明皇后を葬られるにふさわしいみりをされていた
3. 天皇のお姿を拝すると世の常の人の母を葬るとき的情とかわりがないようにみられた
4. 天皇の服装は世間の普通の息子が母を葬るときのようにきわめてしつそであつた
5. 母であられる貞明皇后を葬られる天皇のお姿はおいたわしかつた

十六 子どもをなくして悲しんでいる観たちにまだほかに幾人もお子さんがおありだからといって、その悲しみをなぐさめようとするのはおろかなことである。かれらにとつては、なきわが子に代るべきものは他にないのである。その子のなくなつたことによつて残された心のうつろは、その子自身をもつてするほか ついにこれのみたすよしもないのである。

おろかなことである というわけは

1. その親には他に子どもが一人もないのだから
2. 死んだ子ほどよい子はないのだから
3. 死んだ子の代りになるのはその子以外にないので
4. 口さきだけのなぐさめでは何にもならぬのだから
5. 子どもの死を親が悲しむのはあたりまえのことだから

十七 人間の心にはたがいにくいちがつた二つの感情がある。もちろんだれでも他人の不幸に同情しない者はない。ところがその不幸をどうにかして切りぬけることができる、今度はこつちで何となく物たりないような心持ちがする。少しおおげさにいえばもう一度その人を同じ不幸におとし入れてみたいような気にさえなる。

くいちがつた二つの感情とはどんなことですか。

1. 自分の不幸に同情してもらいたいという心と他人を不幸にしてやりたいという心
2. 他人の不幸に同情しない心とその人をいつも不幸におとし入れてやりたいという心
3. 他人の不幸に同情する心と自分の不幸にも同情してもらいたい心
4. 他人の不幸に同情する心とその人が不幸からぬげでることを喜ばぬ心
5. 他人の不幸に同情する心と何となく物たりなく思う心

十八 私は中学時代に「少年団」という雑誌で、眼鏡みがきを生活の仕事として研究に一生をすごしたスピノザの伝記に心をひかれた記憶がある。そうして今、それになるうとして待つていた「日本」の記者になるすすめをうけてみると、記者というものが研究などのできる職業とは思われなくなつて気おくれがしだした。生活のための仕事なら記者より眼鏡みがきの方がましだと思つたのは職人を祖先にもつた私の早くからの考え方であつた。「まだ早い」「もうこれでいい」というまで石にかじりついてはもつと自分をこしらえ上げたい。「ことわつていまのような生活をいつまでも つづける気か。ばかな。」という気が心のかたすみにくすぶつていながらも、勇気をふるいおこして、目の

前に現われた安楽椅子をよそおつた鼠落しをけとばそうと努力した。

勇氣というのはどんな勇氣ですか。

1. 生活の苦勞とたたかつていく勇氣のこと
2. 記者になつて一時の満足や生活の安樂を求め心にうちかち、もつと向上しようとする勇氣のこと
3. 記者になることに氣おくれが出てきたが、そんな弱い心をすてて待ちに待つた希望を達しようとする勇氣のこと
4. 研究と職業とは両方同時に満足させることは困難であるから、どちらかの希望をすてようとする勇氣のこと
5. スピノザのように生活のための仕事にたずさわりながら、一方で研究をつづけていこうとする勇氣のこと

十九 書物に対しては発見的に読むことが大切である。発見的に読むには読者が自分自身に何か問題をもつて書物に対しなければならぬ。そうして自分でたえず考えながら読むようにしなければならぬ。読書はその場合著者と自分との対話になる。この対話のうちに読書の眞の楽しみが見出されなくてはならない。自分で考えることをしないで、著者に代つて考えてもらうために読書するというのはよくない。

著者と自分との対話とはどんなことですか

1. 著者と読者が話すること
2. 著者の話すことを自分がきいてそれを自分のものにすること
3. 読書の眞の楽しみを得ようとして著者の語ることに耳をかたむけること
4. その本をかいた著者の世界に入りこんで著者の話すのをきくこと
5. 自分のもっている問題を解決するために書物の中で疑問を著者に問えば、著者もそれに答えてくれることになること

二十 何もかも「切りかえ」なければならぬといつて、日本に芽生えて育つはずの文化をすて去つてしまうと、日本の古い立場というものが失われてしまう。物質的なものがほろびるのはまだしも、日本人の物ごとに対するねばりの強さがほろびてしまうのはおそろしい。大切なことは今現にもつているもの、祖先の残してくれたものの「手入れ」である。伝統をすて去らずにそれを新時代に適合するように工夫し改造し合理化し建て増していくいき方である。着物のほころびはつぎをあてて役立たせよう。つぎはぎだらけの文化こそ本当に身についた学問文化である。「庭の手入れ」「着物の手入れ」「文章

に手を入れる」など「手を入れる」という言葉を祖先が残してくれたことに感謝し、軽々しい「切りかえ」でなく、じみな自立たない「手入れ」で日本をたてなおそう。

学問文化の手入れとはどんなことですか。

1. 祖先から伝わっているものに手を加え、新しい時代にあうように合理化していくこと
2. 今現にもつているもの、祖先が残してくれたものを少しもきずつけずに大切に保存していくこと
3. 気持さえしつかりしていれば、物質的なものはほろびてもよいから、新しいものに切りかえていくこと
4. 着者や庭や文章などをよいものにつくり上げていくこと
5. 新しい学問、文化を身につけていくこと

テストその三

一 れんげのはながさいた。あのうえでままごとをしたいな。そしてころんであそびたいなあ。

このおはなしをかいたこどもはどんなきもちでしょう。

1. いろいろのはながさいてきれいだ
2. れんげのはながさきとてもうれしい
3. ままごとをしていてころんでいたかつた
4. おともだちとままごとがしたい
5. いつまでもあそんでいたい

二 からすがにくをくわえてきのえだにとまつていた。そこへきつねがきて、「からすさんあなたのほねはきれいだこと。きつとあなたのこえもよいでしょうね。」といつた。からすがいばつて「かあ」ひとこえなくと、くわいでいたにくがしたにおちて、きつねにとられてしまつた。

このおはなしは どういうことを わたくしたちに おしえて いるでしょう。

1. にくやたべものは だいにしなければならぬ
2. からすのように いいこえがだせるとよい
3. きつねのように ひとのものをとつてはいけぬ
4. いいきになつていざると、からすみたくにしくじる
5. きつねはずるい

三 おにわの もみの木は からだが 大きく せが たかい。ふゆも はを ちらさ
ず みどりの ふくを きている。むしが ついても かれず、かぜに ふかれても
ゆれながら へいきで のびて いる。もみの木は じようぶだなあ。

なぜ もみの木に かんしんして いるでしょう

1. せがたかいから
2. ふゆもはをちらさないから
3. むしがついてもかれないから
4. かぜにふかれてもへいきだから
5. じようぶだから

四 子つばめたちが そだつて すから とびたつ 日が きました。もう くちばし
も きいろく ありません。そらの はれた 五月の あさです。子つばめたちは
みんな あたらしい 白い ちよつきに くらい がいとろで うれしそうです。おや
つばめが さきに たつて とぶと、子つばめたちも ぱつと とびだしました。

おやつばめは どんな きもちでしょう

1. 子つばめはかわいいなあ
2. 子つばめもようやくひとりでとべるようになってうれしいなあ
3. みんなでなかよくあそぼうよ
4. こんどは子つばめがはたらいて、わたしがらくをするばんだよ
5. 子つばめのあたらしいちよつきがきれいだなあ

五 まさおは 先生から 本を かりて 大よろこびでした。ところが よなかに あ
めがふつて、本は びしょびしょに ぬれました。まさおは こまつて しまいました
が、あたらしいのを かつて かえす おかねが ありません。まさおは 先生に あ
やまりました。そして 三日のあひだ にわの 草を かつたり、まきを わつたりし
て はたらきました。

先生は まさおのことを どう おもつたでしょう。

1. びんぼうできのどくだ
2. かんしんな子だ
3. よくはたらく子だ
4. 本をぬらしてこまつた子だ
5. くさとりやまきわりのじようずな子だ

六 おやすずめは子すずめをだきしました。こえをしぼつてよびたてました。三ども

四どもよびたてました。五ども六ども名をよびたてました。けれども子すずめはつばさをうごかしませんでした。目はふたつともじたきり、足はちちんでおなかにぴつたりよつていました。

「ああ どうしよう。なんとしよう。」

おやすずめはどんなきもちでしょう。

1. 子すずめをなんとかしてたすけてやりたい
2. ねぼろの子すずめだから はやく目をさませてやろう
3. かわいい子すずめだから だきしめてやりたい
4. 子すずめはつんぼなのか みみがとおくてこまつてしまつた。
5. なんていうことをきかない子すずめなこと

七 なつかしい家なつかしい村どおりです。

おかあさんにたべさせたいとおもつてうえたおいもは もうみてやることもできません。しばらくしてわたしはなきながら、村はずれのとうげ道をのぼつてゆきました。あいにくとだれにもあいませぬ。村ふりをかえるたび 家が小さく小さくなつてゆきます。

この文をつくつた人はどんなきもちでしょう

1. ようやくなつかしい村にかえつてきた
2. おかあさんをさがしにでたけれど みつからずさびしい
3. とうげの上から村を見おろしたら、家が小さくならんできれいだった。
4. おいもが大きくなつたから、おかあさんにたべさせてやりたい
5. おかあさんやすみなれた村とわかるのがかなしい

八 いよいよこの地ともお別れだ。なごりおしい気がする。みんなで後しまつにかかると。草むらにすてられたあきかんやかみくずなどが集められる。一つ一つにキャンプの思い出がこめられているのだ。みんなでねつしんにはたらいだ。後しまつはキャンプの礼ぎだ。

後しまつをしている気もちはどんなですか。

1. あとをきれいにしてかえろう
2. あきかんやかみくずをむだにはいけない
3. こんなところにあきかんやかみくずをすててはいけない
4. こんなにたくさんすてたかと思うとびつくりする
5. あきかんやかみくずはキャンプの思い出だから大切にしよう

九 ヘンリーは誰の時計をなおしてやっても お金をとらなかつた。「ヘンリーのところへ行くと、ただで時計がなおしてもらえる」というので、しまいには遠くの村からもたのみにくるようになった。「ヘンリー 少しでもお金をとってもらわないとこまるよ。」という人があると、にこにこして答えるのだつた。

「おじさん、ぼくはこの時計でおもしろくあそびさせてもらったのだから、ぼくのほうからお礼をあげたいくらいですよ。」

ヘンリーはどんな気持なのでしょう。

1. 世の中のためにつくそう
2. 時計をなおしてお金をもうけよう
3. ぼくは時計屋でないから お金はいらない
4. ただ時計をなおすのがおもしろくて ほかのよくはない
5. 時計をなおすことが上手になつて 早くよい時計屋になりたい

十 山林は私たちの生活にふかい関係があります。山林をりっぱにそだてあげることは私たちの生活をゆたかにすることになります。毎年農作物に害をあたえる水害も山林をそだてることでふせげるといわれています。デンマークも植林により世界一流の農業国になつたのです。

この文はどういことをいっているのでしょうか。

1. 山林は私たちの生活にふかい関係がある
2. 水害は山林をそだてることによってふせげられる
3. デンマークは植林によってさかんになった
4. 山林をそだてることは大切なことだ
5. 農業国になるには山林をそだてなければいけない

十一 ある王さまのところに粟つぶを空になげてはそれを針のめどにくぐらせるという名人があらわれた。いよいよ演技がおわると、どうかたくさんのごほうびをいただきたいとおねだりしたことはもちろんである。すると王さまはただ「粟二三升あげよう。こういうむつかしい技はたえず練習しないとわすれられてしまうからな。」といわれたきりだつた。めずらしい演技をみた王さまはどんなことを感じたのでしょうか。

1. めずらしいことだからもっと練習させて、ますます上手にさせてやろう。
2. こんなことばかり上手でも大してじまんにならない
3. 名人にたくさんのほうびをやろう

4. そんなことは少しもおもしろくない
5. このめずらしい技の持主を家来にしたい

十二 正確な時計ができてずいぶん便利になった。時計によって汽車にもまちがいはなくのれるし、会合にもおくれないうで出席できる。しかし正確な時間を知ってもそれを守ろうとする人が案外少ないのはおかしいことである。むかしは棒を地上にたてて影をうつしだす日時計や水や砂の時計を使つた。これでは時間がこまかく正確にわからずこまかったことだろうと思うが、正確な時計ができた今日でも むかしの人と同じ不便を感じる時があるのはどうしてだろう。

この文はどういうことをいっているのでしょうか。

1. むかしにくらべると世の中はずいぶん便利になつた
2. 時計の進歩はすばらしいものである。
3. 正確な時計ができててもそう便利ではない。
4. 時間はよくまもらなければいけない
5. むかしの人は正確な時計がなくてこまかつたろう

十三 オナガザルは年をとって目が弱くなってきました。が 人間たちの話によると、その不幸はさほどたいしたことではなく、めがねさえかければよいということでした。そこでサルは半ダースほどのめがねを手に入れました。そしてそれをいろいろいじりまわし、あたまでっぺんへおしつれたりかいでみたりなめてみたりしました。が、どうやってみてもめがねはなんの役もしませんでした。「ちえっ、畜生め！」とサルは申しました。

「人間のいいかげんなでたらめなどきいているやつはばかなんだ。めがねがどろのころのって ろそばかりつきやがって。そんなもの、髪の毛一本の役もするもんか。」オナガザルはそこでいまいましてと口おしざから、力まかせにめがねを石へ投げつけました。めがねはこなみじんになってちかちかと光っただけでした。

この話はどんなことをいおうとしているのですか。

1. 目の力が弱ってもめがねをかければよい
2. 人間はいいかげんのことばかりいうものだ
3. 人間とサルはやはりちがう
4. ばかなものは、自分の誤りがわからなくて他人を悪くいう
5. サルでもだまされれば腹をたてる

十四 いわゆる頭のいい人はいわば足の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない所へ行きつくこともできるかわりに、途中の道ばたあるいはちょっとしたわき道にある大事なものを見落すおそれがある。頭の悪い人、足ののろい人がずっとあとからおくれてきて、わけもなくその大事なたからを拾って行く場合がある。

この文はどんなことをいおうとしたのですか。

1. いわゆる頭のいい人の方がいい
2. いわゆる頭の悪い人の方がいい
3. 頭の悪い人はのろいが、注意して進むから大事なことは見失わない
4. 頭のいい人は大事なことを見落して失敗をくりかえすものである
5. 頭のいい人はちょっとしたことで大事なことを見失いやすいから気をつけるがよい

十五 ひとりひとりの人間は世の中全体から見ればどんなに小さなものであっても、みんなそれぞれかけがえのないぬちを持っています。それぞれの人間が他人の自由をおかさないうえ、自由にものを考え、自由にその考えを述べ、自由に行動することに対しては、だれでも勝手にこれをおさえふみつめることは許されません。

この文はどんなことをいっているのですか。

1. 人は自由に行動しなければいけないということ
2. ひとりひとりの人間を尊重しなければいけないということ
3. ひとりひとりの人間の権利をおかしてはいけないということ
4. ひとりひとりの人間は社会のためにつくさなければいけないということ
5. 人の考えをおさえるのはいけないということ

十六 イギリスのことわざに、馬を水にひき入れることはできるが馬に水をのませることはできないというのがある。それは馬を水にひきずりこむことは力の強いものならだれでもできるけれども、馬が水を飲むというのは馬が自分の心によって飲むのでなければできないことであつて、ポンプで水を馬の口につぎこんでも、それは水が馬の腹に入ったとはいへても馬が水を飲んだことにはならない。人についても同じことがいわれる。しかるにわれわれは自分の腹に水がポンプでつぎこまれたのにもかかわらず、水を飲んだ、飲んだといっている事例はないだろうか。

この文はどんなことをいっているのですか。

1. 人は馬の自由をうばうことはできない

2. 自分が自由に選んでやったことでなければ意義がない
3. 人は力の強いものにしいられると望みもしないことをやるものだ
4. 人は他の動物とちがって自由をうばわれることがない
5. なに事も他からしいられてやることは苦しいことだ

十七 同じ種類の動物でも個性がそれぞれちがうことは、動物を自分で手がけて飼育したものでないと実際にはわからない。多くの人は動物の個性などでんで考えられないものと頭からきめてかかる。なるほどある種類には共通した一般の性質はたしかに見られる。しかしその反面にはそのものに特有の性質が認められることは、程度の違いこそあれ人間におけると同様である。

この人はどんなことをいっているのですか。

1. 動物を飼育するとその動物の性質がよくわかる
2. 動物にはその種類に共通した性質がある
3. 動物にも特有の個性がみなそなわっている
4. 動物には個性のちがいは認められない
5. 人は動物に個性のあることなど考えない

十八 たった今、自分の家の前の窓の下に起った事件を、それをみていた幾人かにきくと、一人一人のいうことがみんなちがっていたので、歴史の筆を投じてなげいた歴史家があったというが、現に目の前に起ったことさえ、心はその持主を異にするままに、いわゆる「心ごころ」にそれをうけとるのである。現に目でみていることを心はしらぬ顔ですごしたり、見もしないものを見たかのように思ったりするものである。

この文はどんなことをいっているのですか。

1. 歴史はかくのはむずかしいと歴史家がなげいていたこと
2. 人の心持はそれぞれちがうものであること
3. 物事は人によってそれぞれ見方や解しゃくが異ってくること
4. 人の心はずいぶん気ままのものであること
5. 同じ一人の人間でもその時によって突さに見ないことを見たかのように思うこともあるからあてにならぬこと

十九 花の色が虫をよぶためにあるとわかったならば、空気は生き物に吸われるために存在しているといつてよさそうだが、まさかそんなわけではあるまい。自分につごうのよい一定の目的に従って物事が存在すると考えたのでは、病氣などはどうしたって説明

ができなくなる。まさか人を苦しめたり殺すためにあるとはいえないだろう。

この文はどんなことをいっているのですか。

1. とかく人間は自分につごうのよいようなことばかり考えやすい
2. すべての物事は人間を幸福にするために存在している
3. 空気は何のためにこの世の中にあるのかわからない
4. ある目的にあわせるようにばかり物事を考えると誤りが生じる
5. 空気は何のためにこの世の中にあるのかわからない

二十 私のこれまでに自然に対する態度はあくまでも動的であって、たえず動いてこちらから求めなければやまなかつたのであるが、奇妙にもこんどは流れる水や川向こうの柳の林や、ただよる雲のゆくえを見ることだけで、そこに無限の情趣がくまれるような気がするようになった。

この文ははどんなことをいっているのですか。

1. 前には自然の美しさを自分からさがし求めたのであるが、こんどはただ見ているだけでその深い味わいがわかるようになった。
2. 前には自然の美しさなどわからなかったが、こんどは手にとるようにはっきりわかるようになった
3. 流れる水や川向こうの柳の林や雲のゆくえをみていると奇妙な気がしてくる
4. 前にはたえず動いているものを追いかけていたが、こんどは静止しているものをじっと見ていられるような落ち着きができた
5. 自然の美しさは人の心のもちょうで変っていくものだ

3.3.2 第一次予備テスト

I テストの実施

日時 昭和26年7月11~14日

場所 新潟市 上所小学校

中蒲原郡 曾野木小学校

新潟市 舟栄中学校

中蒲原郡 横越中学校

被験者 小学校 2・3・4・5・6年 各学年約100名

中学校 1・2・3年 各学年約100名

所員が各学校にでむいて、テストの実施の方法についてこまかい打合わせをやり、実施は各学校にまかせた。実施には、つぎのことに特に注意してもらった。

- ・第1日目に、テストその一・二、第2日目に テストその三 をやること
 - ・時間は 第1日目は第一時限と第二時限
第2日目は第一時限にやること。
 - ・検査場は平素の気分で十分実力の發揮できる場所として、いつもの教室をつかうこと。
 - ・計時は正確にやること。
 - ・読めない字は教えてやってもよい。ただし・字句・用語を説明したり、文章を読んでやったり、その他解答に暗示を与えるようなことはやらないこと。
なお つぎの各項について調査した意見を求めた。
 - ・所要検査時間
 - ・文字・語い・語句の適否
 - ・理解度……問題のだしかたがまぎらわしくて誤解をおこしやすい点がないか
 - ・その他についての教師の意見
 - ・検査後の被験者の感想
- 答案の処理は一切研究所でやった。

II 結果とその考察

得点の傾向を概観するために、各学年の正答数とその平均をみると第3.3表のとおりである。

第3.3表 第一次予備テストの成績

学 年		項 目							
		㊦2年	3年	4年	5年	6年	㊦1年	2年	3年
人 員		98	98	96	99	95	95	103	97
そ の 一	正答数	187	360	557	653	652	818	916	970
	平均	1.9	3.7	5.8	6.6	6.9	8.6	8.9	10.0
そ の 二	正答数	178	447	489	692	811	849	1,065	1,049
	平均	1.8	4.6	5.1	7.0	8.4	8.9	9.8	10.8

その三	正答数	198	362	458	561	663	711	889	1,018
	平均	2.0	3.7	4.7	5.7	7.0	7.5	8.6	10.4
計	正答数	563	1,169	1,504	1,906	2,126	2,378	2,810	3,037
	平均	5.7	11.9	15.7	15.2	22.4	25.0	27.3	31.3
計の前学年との差			+6.2	+3.8	+3.5	+3.2		+2.3	+4.0

難易度 各問題に対する学年毎の正答率を知ればよい。第3.4表はそれをあらわす。第3.5表は 学年をグルーピングして、小学校2年3・4年5・6年中学校1・2・3年ごとの正答率をあらわしたものである。なおこれらの表は つぎの妥当性の検定とも関連して、下位学年と上位学年との差もあらわしてある。

妥当性 各問題に対する正答率が下位学年と上位学年との間に有意の差があるかどうかによって検定した。その結果は第3.4表第3.5表のとおりである。有意性の検定の方法については第6章にのべる。(表中×は危険率5% ××は1%で有意の差のみとめられる意以下おなじ)

第3.4表(1)

各学年の正答率とその差

(テストその一)

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差			
一	小2	27.5		二	小2	28.5		三	小2	41.8				
	小3	41.0	+13.5		小3	51.0	+22.5		××	小3	50.0	+8.2		
	小4	29.0	-12.0		小4	59.0	+8.0			小4	66.0	+16.0	××	
	小5	34.0	+5.0		小5	68.0	+9.0			小5	70.0	+4.0		
	小6	46.5	+12.5		小6	78.7	+10.7			小6	76.7	+6.7		
	中1	44.3	+8.0		中1	81.8				中1	78.7			
	中2	52.3	0	中2	81.3	-0.5		中2	70.1	-8.6				
	中3	52.3		中3	87.6	+6.3		中3	90.4	+20.3	××			
四	小2	14.2		五	小2	11.2		六	小2	47.9				
	小3	36.0	+21.8		××	小3	25.0		+13.8	×	小3	48.9	+1.0	
	小4	31.0	-5.0		小4	23.0	-2.0			小4	59.0	+10.1		
	小5	58.0	+27.0		××	小5	41.0		+18.0	×	小5	53.0	+4.1	
	小6	55.5	-2.0		小6	47.4	+6.4			小6	50.5	-2.5		
	中1	60.6			中1	56.5				中1	57.5			
	中2	69.1	+8.5	中2	60.8	+4.3		中2	48.5	-9.0				
	中3	61.8	-7.3	中3	66.6	-5.8		中3	52.3	-3.8				
七	小2	9.2		八	小2	11.2		九	小2	3.1				
	小3	27.0	+17.8		××	小3	13.0		+1.8		小3	14.0	+10.9	×
	小4	35.0	+8.0		小4	8.0	-5.0			小4	27.0	+13.0	×	
	小5	45.0	+10.0		小5	5.0	-3.0			小5	46.6	+19.0	×	
	小6	38.7	-6.3		小6	14.1	+9.1		×	小6	63.0	+17.6	×	
	中1	54.5			中1	19.1				中1	71.7			
	中2	58.8	+4.3	中2	13.1	-6.0		中2	64.5	-8.1				
	中3	69.5	+10.7	中3	23.8	+10.7	×	中3	69.5	+5.0				
一〇	小2	3.1		一一	小2	1.0		一二	小2	0				
	小3	25.0	+21.9		××	小3	7.0		+6.0	×	小3	6.0	+6.0	
	小4	20.0	-5.0		小4	9.0	+2.0			小4	12.0	+6.0		
	小5	30.0	+10.0		小5	38.0	+29.0		××	小5	7.0	-5.0		
	小6	41.4	+11.4		小6	32.3	-5.7			小6	13.1	+6.1		
	中1	46.4			中1	50.5				中1	22.2			
	中2	36.4	-10.0	中2	54.2	+3.7		中2	18.7	-3.5				
	中3	46.6	+10.2	中3	75.2	+21.0	××	中3	24.4	+5.7				
一三	小2	1.0		一四	小2	1.0		一五	小2	0				
	小3	5.0	+4.1		×	小3	3.0		+2.1		小3	2.0	+2.0	
	小4	19.0	+14.0		××	小4	19.0		+15.9	××	小4	7.0	+5.0	×
	小5	26.0	+7.6		小5	19.0	0			小5	19.0	+12.0	×	
	小6	16.1	-9.9		小6	14.1	-4.9			小6	8.1	-10.9	×	
	中1	36.3			中1	15.1				中1	16.1			
	中2	33.6	-2.7	中2	20.6	+5.5		中2	23.3	+7.2				
	中3	38.1	+4.5	中3	28.5	+7.9		中3	19.0	-4.3				
一六	小2	1.0		一七	小2	0		一八	小2	0				
	小3	6.1	+5.1		×	小3	1.0		+1.0		小3	1.0	+1.0	
	小4	15.0	+8.9		×	小4	9.0		+8.0	×	小4	14.0	+13.0	××
	小5	28.0	+13.0		×	小5	19.0		+10.0	×	小5	34.0	+20.0	××
	小6	14.1	+13.9		×	小6	15.1		-3.9		小6	36.3	+2.3	
	中1	23.2			中1	24.2				中1	67.5			
	中2	24.3	+1.1	中2	40.2	+16.0	×	中2	60.8	-6.7				
	中3	40.0	+15.7	中3	37.1	-3.1		中3	69.6	+8.8				

一 九	小 2	0		二 〇	小 2	0	
	3	3.0	+3.0		3	1.0	+ 1.0
	4	9.0	+6.0		4	4.0	+ 3.0
	5	8.0	-1.0		5	13.0	+ 9.0
	6	9.1	+1.1		6	18.1	+ 5.1
	中 1	15.1			中 1	15.1	
	2	29.9	+14.8		2	16.8	+ 1.7
	3	22.8	-7.1		3	13.3	- 3.5

第3.4表(2) 各学年の正答率とその差

(テストその二)

問題	学年	正答率	前と 学の 年差	問題	学年	正答率	前と 学の 年差	問題	学年	正答率	前と 学の 年差	
一	小 2	36.7		二	小 2	20.4		三	小 2	22.4		
	3	55.0	+18.3		3	50.0	+30.4		3	3	66.0	+43.6
	4	59.0	+4.0		4	50.0	0		4	4	50.0	-16.6
	5	66.4	+7.4		5	66.5	+16.5		5	5	50.5	+ 0.5
	6	82.0	+15.6		6	75.0	+ 8.5		6	6	67.0	+16.5
	中 1	82.6			中 1	75.5			中 1	1	59.1	
	2	84.9	+2.3		2	81.1	+5.6		2	2	82.1	+23.0
	3	90.4	+5.5		3	84.7	+3.6		3	3	88.5	+ 6.4
	四	小 2	38.7			五	小 2		22.4		六	小 2
3		59.0	+20.3	3	30.0		+ 7.6	3	3	35.0		+18.7
4		62.0	+3.0	4	34.0		+ 4.0	4	4	36.0		+ 1.0
5		78.3	+16.3	5	50.6		+16.6	5	5	59.5		+23.5
6		83.0	+ 4.7	6	60.0		+ 9.4	6	6	63.0		+ 3.5
中 1		87.7		中 1	58.1			中 1	1	72.4		
2		92.4	+4.6	2	65.1		+ 7.0	2	2	84.9		+12.5
3		91.4	-1.0	3	64.7		- 0.4	3	3	83.8		- 1.1
七		小 2	14.2		八		小 2	10.2		九		小 2
	3	42.0	+27.8	3		34.0	+23.8	3	3		22.0	+20.0
	4	53.0	+11.0	4		46.0	+12.0	4	4		26.0	+ 4.0
	5	59.5	+6.5	5		55.5	+ 8.5	5	5		27.5	+ 1.5
	6	71.0	+11.5	6		79.0	+23.5	6	6		36.0	+ 8.5
	中 1	68.3		中 1		72.4		中 1	1		42.8	
	2	85.8	+17.5	2		80.1	+ 7.7	2	2		35.8	- 7.0
	3	88.5	+2.7	3		87.6	+ 7.5	3	3		42.8	+ 7.0
	一〇	小 2	6.1			一一	小 2	0			一二	小 2
3		23.0	+16.9	3	3.0		+ 3.0	3	3	2.0		+ 2.0
4		17.0	-6.0	4	15.0		+12.0	4	4	8.0		+ 6.0
5		20.2	+3.2	5	16.1		+ 1.1	5	5	10.1		+ 2.1
6		21.0	+0.8	6	25.0		+ 8.9	6	6	24.0		+13.9
中 1		24.4		中 1	20.4			中 1	1	21.4		
2		32.1	+7.7	2	25.5		+ 5.1	2	2	24.5		+ 3.1
3		26.6	-5.5	3	32.3		+ 6.8	3	3	29.6		+ 5.1
一一		小 2	0		一四		小 2	0		一五		小 2
	3	6.0	+6.0	3		7.0	+ 7.0	3	3		6.0	+ 6.0
	4	11.0	+5.0	4		8.0	+ 1.0	4	4		13.0	+ 7.0
	5	24.2	+13.2	5		18.1	+10.1	5	5		19.1	+ 6.1
	6	27.0	+2.8	6		18.1	- 0.1	6	6		16.1	- 3.0
	中 1	22.4		中 1		16.3		中 1	1		21.4	
	2	33.0	+10.6	2		14.1	- 2.2	2	2		27.3	+ 6.1
	3	32.3	-0.7	3		10.4	- 3.7	3	3		44.7	+17.4

問題	学年	正答率	前との 学年差	問題	学年	正答率	前との 学年差	問題	学年	正答率	前との 学年差
一六	小2	0		一七	小2	0		一八	小2	0	
	3	4.0	+4.0		3	3.0	+3.0		3	4.0	+4.0
	4	1.0	-3.0		4	7.0	+4.0		4	3.0	-1.0
	5	11.1	+10.1 × ×		5	21.2	+14.2 ×		5	8.1	+5.1
	6	22.0	+10.9 ×		6	26.0	+4.8		6	6.0	-2.1
	中1	31.6			中1	29.5			中1	24.4	
	2	35.8	+4.2		2	14.1	-15.4 ×		2	13.2	-11.2 ×
3	43.8	+8.2	3	17.1	+3.0	3	13.3	+0.1			
一九	小2	0		二〇	小2	0					
	3	3.0	+3.0		3	0					
	4	6.0	+3.0		4	2.0	+2.0				
	5	22.2	+16.2 × ×		5	9.1	+7.1 ×				
	6	29.0	+6.8		6	19.0	+9.9 ×				
	中1	30.6			中1	15.3					
	2	43.4	+12.8		2	32.1	+16.8 ×				
3	26.6	-16.8 ×	3	52.3	+20.2 × ×						

第34表 (3)

各学年の正答率とその差

(テストその三)

問題	学年	正答率	前との 学年差	問題	学年	正答率	前との 学年差	問題	学年	正答率	前との 学年差
一	小2	39.7		二	小2	12.2		三	小2	44.7	
	3	37.0	-2.7		3	15.0	+2.8		3	45.0	+0.3
	4	43.3	+0.3		4	18.1	+3.1		4	47.4	+2.4
	5	40.0	-3.3		5	41.0	+22.1 × ×		5	36.0	-0.4
	6	48.4	+8.4		6	36.3	-4.7		6	49.5	+13.5
	中1	31.0			中1	51.0			中1	56.0	
	2	28.9	-2.1		2	57.9	+6.9		2	55.1	-0.9
3	36.9	-8.0	3	62.1	+2.2	3	65.0	+4.9			
四	小2	27.5		五	小2	20.4		六	小2	34.6	
	3	39.0	+1.5		3	47.0	+26.6 × ×		3	48.0	+13.4
	4	50.0	+11.0		4	46.0	-1.0		4	63.0	+15.0 ×
	5	58.0	+8.0		5	68.0	+22.0 × ×		5	67.0	+4.0
	6	73.7	+15.7 ×		6	65.6	-2.4		6	80.8	+13.8 ×
	中1	82.0			中1	74.0			中1	80.0	
	2	83.1	+1.1		2	72.9	-1.1		2	84.1	+4.1
3	81.5	-1.6	3	82.5	+9.6	3	90.3	+6.2			
七	小2	9.2		八	小2	17.3		九	小2	2.0	
	3	24.0	+14.8 ×		3	30.3	+16.7 ×		3	12.0	+10.0 ×
	4	27.0	+3.0		4	31.0	+1.0		4	20.0	+8.0
	5	36.0	+9.0		5	22.0	-9.0		5	22.0	+2.0
	6	57.6	+11.6		6	28.2	+6.2		6	44.4	+22.4 × ×
	中1	55.0			中1	31.0			中1	54.0	
	2	64.5	+9.5		2	31.7	+0.7		2	68.2	+16.2 ×
3	67.0	+2.5	3	54.4	+22.7 × ×	3	64.1	-4.1			

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差		
一〇	小2	6.1		一一	小2	1.0		一二	小2	2.0			
	3	14.0	+6.9		3	2.0	+1.0		3	10.0	+8.0	×	
	4	16.0	+2.0		4	19.0	+17.0		×	4	16.0	+6.0	
	5	15.0	-1.0		5	16.0	-3.0			5	14.0	-2.0	
	6	8.1	-6.9		6	10.1	-5.9			6	31.2	+17.2	×
	中1	12.0			中1	16.0				中1	29.0		
	2	16.8	+4.8		2	19.6	-3.6			2	33.6	+4.6	
3	17.4	+0.6	3	22.3	+2.7		3	52.4	+18.8	×			
一三	小2	3.1		一四	小2	1.0		一五	小2	0			
	3	11.0	+7.9		3	5.0	+4.0			3	10.0	+10.0	×
	4	13.0	+2.0		4	16.0	+11.0		×	4	18.0	+8.0	
	5	17.0	+4.0		5	39.0	+23.0		×	5	24.0	+6.0	
	6	27.2	+9.8		6	21.2	-17.8		×	6	23.2	-0.8	
	中1	33.0			中1	25.0				中1	24.0		
	2	48.6	+15.6		2	38.3	+13.3		×	2	28.0	+4.0	
3	55.3	+6.7	3	58.2	+19.9	×	3	45.6	+17.6	×			
一六	小2	0		一七	小2	0		一八	小2	0			
	3	4.0	+4.0		3	6.0	+6.0			3	4.0	+4.0	
	4	12.0	+8.0		4	13.0	+7.0			4	5.0	+1.0	
	5	19.0	+7.0		5	14.0	+1.0			5	11.0	+6.0	
	6	21.2	+2.2		6	19.1	+5.1			6	13.1	+2.1	
	中1	16.0			中1	22.0				中1	17.0		
	2	21.5	+5.5		2	24.3	+2.3			2	34.1	+17.5	×
3	32.0	+10.5	3	35.9	+11.6		3	30.0	-4.1				
一九	小2	0		二〇	小2	0		二一	小2	0			
	3	2.0	+2.0		3	1.0	+1.0			3	1.0	+1.0	
	4	7.0	+5.0		4	2.0	+1.0			4	2.0	+1.0	
	5	11.0	+4.0		5	10.0	+8.0		×	5	10.0	+8.0	×
	6	11.1	+0.1		6	22.0	+12.0		×	6	22.0	+12.0	×
	中1	26.0			中1	15.0				中1	15.0		
	2	25.2	-0.8		2	24.3	+9.3			2	24.3	+9.3	
3	33.9	+8.7	3	43.6	+19.3	×	3	43.6	+19.3	×			

第35表 (1)

グループングした学年の正答率と他との比較 (その一)

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差		
一	小2	27.5		二	小2	28.5		三	小2	41.8			
	3.4	35.0	+7.5		3.4	57.5	+16.0		×	3.4	57.5	+15.7	×
	5.6	40.2	+5.2		5.6	73.4	+18.9		×	5.6	73.4	+15.7	×
	中1.2.3	50.5			中1.2.3	83.6				中1.2.3	83.0		
四	小2	14.2		五	小2	11.2		六	小2	47.9			
	3.4	33.5	+19.3		×	3.4	24.0		+12.8	×	3.4	53.5	+5.6
	5.6	56.8	+23.3		×	5.6	44.2		+20.2	×	5.6	51.8	-1.7
	中1.2.3	64.0			中1.2.3	61.4				中1.2.3	52.7		

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差
七	小2	9.2		八	小2	11.2		九	小2	3.1	
	3.4	31.0	+21.8 ××		3.4	10.5	-0.7		3.4	20.5	+17.4 ××
	5.6	41.7	+10.7 ×		5.6	9.5	-1.0		5.6	54.8	+34.3 ××
	中				中				中		
1.2.3	61.1		1.2.3	18.6		1.2.3	68.5				
一〇	小2	3.1		一一	小2	1.0		一二	小2	0	
	3.4	22.5	+19.4 ××		3.4	8.0	+7.0 ××		3.4	9.0	+9.0 ×
	5.6	35.7	+13.2 ×		5.6	35.1	+27.0 ××		5.6	10.1	+1.1
	中				中				中		
1.2.3	43.1		1.2.3	60.1		1.2.3	31.9				
一三	小2	1.0		一四	小2	1.0		一五	小2	0	
	3.4	12.2	+11.0 ××		3.4	14.0	+13.0 ××		3.4	4.5	+4.5
	5.6	21.1	+9.1		5.6	16.6	+2.6		5.6	13.5	+9.0 ××
	中				中				中		
1.2.3	36.0		1.2.3	21.5		1.2.3	19.6				
一六	小2	1.0		一七	小2	0		一八	小2	0	
	3.4	10.5	+9.5 ××		3.4	5.0	+5.0		3.4	-7.5	+7.5 ×
	5.6	21.1	+10.5 ×		5.6	17.1	+12.1 ××		5.6	35.2	+27.7 ××
	中				中				中		
1.2.3	29.3		1.2.3	34.1		1.2.3	65.9				
一九	小2	0		二〇	小2	0					
	3.4	6.0	+6.0		3.4	2.5	+2.5				
	5.6	8.5	+2.5		5.6	16.1	+13.6 ××				
	中				中						
1.2.3	22.8		1.2.3	14.8							

第35表(2)

グループピングをした学年の正答率と他との比較(その二)

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差
一	小2	36.7		二	小2	20.4		三	小2	22.4	
	3.4	52.0	+15.3 ×		3.4	50.0	+29.6 ××		3.4	58.0	+33.6 ××
	5.6	74.4	+22.4 ××		5.6	71.9	+21.9 ××		5.6	58.8	+0.8
	中				中				中		
1.2.3	86.1		1.2.3	80.6		1.2.3	77.0				
四	小2	38.7		五	小2	22.4		六	小2	16.3	
	3.4	60.5	+21.8 ××		3.4	32.0	+9.6		3.4	35.5	+19.2 ××
	5.6	80.9	+20.4 ××		5.6	56.3	+24.3 ××		5.6	61.3	+25.8 ××
	中				中				中		
1.2.3	90.6		1.2.3	62.8		1.2.3	80.6				
七	小2	14.2		八	小2	10.2		九	小2	2.0	
	3.4	47.5	+33.3 ××		3.4	40.0	+29.8 ××		3.4	24.0	+22.0 ××
	5.6	65.3	+17.8 ×		5.6	67.3	+27.3 ××		5.6	31.7	+7.7
	中				中				中		
1.2.3	81.2		1.2.3	80.3		1.2.3	40.5				

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差
一〇	小2	6.1		一一	小2	0		一二	小2	0	
	3.4	20.0	+13.9 ××		3.4	9.0	+9.0 ×		3.4	5.0	+5.0
	5.6	20.6	+0.6		5.6	20.6	+11.6 ××		5.6	17.1	+12.1 ××
	中	27.8			中	26.2			中	25.2	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
一三	小2	0		一四	小2	0		一五	小2	0	
	3.4	8.5	+8.5		3.4	7.5	+7.5		3.4	9.5	+9.5 ×
	5.6	25.6	+17.1 ××		5.6	18.1	+10.6 ××		5.6	17.6	+8.1
	中	29.4			中	15.6			中	31.4	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
一六	小2	0		一七	小2	0		一八	小2	0	
	3.4	2.5	+2.5		3.4	5.0	+5.0		3.4	3.5	+3.5
	5.6	16.6	+14.1 ××		5.6	23.6	+18.6 ××		5.6	7.0	+3.5
	中	37.2			中	20.1			中	16.8	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
一九	小2	0		二〇	小2	0					
	3.4	4.5	+4.5		3.4	1.0	+1.0				
	5.6	25.6	+21.1 ××		5.6	14.1	+4.1				
	中	33.7			中	33.0					
1.2.3			1.2.3								

第35表(3)

グループングをした学年の正答率と他との比較(その三)

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差
一	小2	39.7		二	小2	12.2		三	小2	44.7	
	3.4	40.2	+0.5		3.4	16.6	+4.4		3.4	46.2	+1.5
	5.6	44.2	+4.2		5.6	38.7	+22.1 ××		5.6	42.7	-3.5
	中	32.3			中	57.1			中	58.7	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
四	小2	27.7		五	小2	20.4		六	小2	34.6	
	3.4	44.5	+17.0 ×		3.4	46.5	+26.1 ××		3.4	22.5	-12.1 ×
	5.6	65.8	+21.3		5.6	66.8	+20.3 ××		5.6	73.9	+51.4 ××
	中	82.3			中	76.5			中	84.5	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
七	小2	9.2		八	小2	17.3		九	小2	2.0	
	3.4	25.5	+16.3 ××		3.4	30.5	+13.2 ×		3.4	16.0	+14.0 ××
	5.6	46.7	+21.2 ××		5.6	25.1	-5.4		5.6	33.1	+17.1
	中	63.9			中	39.0			中	62.3	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					
一〇	小2	6.1		一一	小2	1.0		一二	小2	2.0	
	3.4	15.0	+8.9 ×		3.4	10.5	+9.5		3.4	13.0	+11.0 ××
	5.6	11.6	-3.4		5.6	13.1	+2.6		5.6	22.6	+9.6 ×
	中	15.5			中	19.4			中	38.4	
1.2.3			1.2.3			1.2.3					

問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差	問題	学年	正答率	前学年との差
一三	小2	3.1		一四	小2	1.0		一五	小2	0	
	3.4	12.0	+8.9 ×		3.4	10.5	+9.5 ××		3.4	14.0	+14.0 ××
	5.6	22.1	+10.1 ×		5.6	30.2	+19.7 ××		5.6	50.8	+36.8 ××
	中1.2.3	46.1			中1.2.3	40.6			中1.2.3	32.6	
一六	小2	0		一七	小2	0		一八	小2	0	
	3.4	8.0	+8.0 ×		3.4	9.5	+9.5 ×		3.4	4.5	+4.5 ×
	5.6	20.1	+12.1 ××		5.6	16.6	+7.1 ×		5.6	12.1	+7.6 ×
	中1.2.3	23.2			中1.2.3	27.4			中1.2.3	27.4	
一九	小2	0		二〇	小2	0					
	3.4	4.5	+4.5 ×		3.4	1.5	+1.5 ××				
	5.6	11.1	+6.6 ×		5.6	16.1	+14.6 ××				
	中1.2.3	28.4			中1.2.3	27.7					

以上の表のうちで妥当性のはっきり認められるものが第二次予備テストの問題にえらばれた。どの問題がとりあげられたかは iii 第二次予備テスト問題の構成を参照

適応性 適応性をきめる一つの基準として問題の選別力を考えることができる。選別力のある問題というのは上位群下位群分析によってみることができ。つまり学力のある被験者（上位群）のうち、その問題について正答した割合と、学力の劣っている被験者（下位群）のそれとを比較して、前者が高く後者が低く、しかも両者の間に有意の差がみられれば、その問題は選別力があるといえる。

妥当性があり、しかもつぎにのべる選択肢の反応分析の結果がらみても適当と思われる問題について、上位群下位群分析をおこなうと第3.6表のようになる。

有意性の検定の方法については第6章にのべる。

第3.6表

上位群下位群分析表

問題	学年	上位群 P ₁	下位群 P ₂	平均	P ₁ -P ₂	
(その一)	二	2	44	4	28.540	× ×
		4	84	20	59.064	× ×
		6	100	40	78.760	× ×
		9	100	60	87.640	× ×
	三	2	60	20	41.840	× ×
		4	92	44	66.048	× ×
		6	100	40	76.740	× ×
		9	100	76	90.426	× ×
	四	2	20	0	14.220	× ×
		4	60	16	31.044	× ×
		6	76	40	55.536	× ×
		9	72	40	61.832	× ×
五	2	20	0	11.220	×	
	4	44	8	23.036	× ×	
	6	88	24	47.464	× ×	
	9	88	32	66.656	× ×	
九	2	4	0	3.14		
	4	48	8	27.040	×	
	6	88	28	63.660	× ×	
	9	84	52	69.536	×	
一一	2	4	0	1.04		
	4	20	0	9.020	×	
	6	60	16	32.344	× ×	
	9	100	48	75.252	× ×	
一七	2	0	0	0.0		
	4	20	0	9.020	×	
	6	36	4	15.132	×	
	9	68	8	37.160	× ×	
(その二)	一	2	80	8	36.772	× ×
		4	80	52	59.028	× ×
		6	100	44	82.056	× ×
		9	96	64	90.432	×
	二	2	32	12	20.420	
		4	80	24	50.056	× ×
		6	100	44	75.056	× ×
		9	96	60	84.736	× ×
	四	2	56	8	38.748	× ×
		4	88	48	62.040	× ×
		6	92	56	83.036	×
		9	100	76	91.424	×

問題	学年	上位群 P ₁	下位群 P ₂	平均	P ₁ -P ₂	
(その二)	五	2	24	24	22.40	
		4	64	20	34.044	×
		6	92	36	60.056	× ×
		9	92	36	64.756	× ×
	七	2	28	0	14.228	×
		4	80	28	53.052	× ×
		6	92	52	71.040	× ×
		9	100	68	88.532	×
	八	2	16	4	10.212	
		4	68	12	46.056	× ×
		6	100	48	79.052	× ×
		9	96	64	87.632	×
一二	2	0	0	0.0		
	4	12	12	8.00		
	6	36	16	24.020		
	9	48	16	29.632	×	
一三	2	0	0	0.0		
	4	8	16	11.0-8		
	6	44	8	27.036	×	
	9	48	16	32.332	×	
一六	2	0	0	0.0		
	4	0	4	1.0-4		
	6	28	4	22.024	×	
	9	76	16	43.860	× ×	
一九	2	0	0	0.0		
	4	12	4	6.08		
	6	36	28	29.08		
	9	52	28	26.624		
(その三)	一	2	56	32	39.724	
		4	44	40	43.34	
		6	68	32	48.436	×
		9	52	28	36.924	
	二	2	24	4	12.220	
		4	8	24	18.1-16	
		6	60	16	36.344	× ×
		9	96	24	62.172	× ×
	四	2	36	20	27.516	
		4	76	32	50.044	× ×
		6	80	56	73.724	
		9	76	60	81.516	

第3.7表(1)

選択肢の反応分析表 (その一)

一

肢	学年	3	4	5
1	×	27.7	41.0	42.0
②		40.5	30.0	34.0
3		13.9	14.0	13.0
4	×	2.0	4.0	0
5		13.9	7.0	10.0
無		2.0	4.0	1.0

二

肢	学年	3
1	×	4.0
2		10.0
3		12.0
4		19.0
⑤		48.0
無		7.0

三

肢	学年	3
1		13.4
2		10.3
③		42.3
4		13.4
5		12.4
無		8.2

四

肢	学年	4	5	6	中 1
1	×	7.4	5.0	2.0	2.0
2		20.0	8.0	7.0	2.0
3	×	8.4	10.0	2.0	4.1
4		23.2	20.0	30.0	30.6
⑤		35.7	56.0	55.0	61.3
無		5.3	1.0	4.0	0

五

肢	学年	3	4	5
1		19.0	20.0	6.1
2		10.0	15.0	17.2
3		33.0	34.0	34.3
④		27.0	23.0	40.4
5	×	7.0	5.0	2.0
無		4.0	3.0	0

六

肢	学年	3	5	中 1	中 3
1	×	6.0	2.0	4.0	4.8
2	×	8.0	2.0	3.0	1.0
③		48.0	54.0	55.6	52.9
4		22.0	26.0	25.3	25.0
5		12.0	16.0	12.1	16.3
無		4.0	0	0	0

九

肢	学年	3	4	5
1		23.0	15.0	17.1
2		17.0	20.0	9.5
3		13.0	13.0	9.5
④		14.0	29.0	43.9
5		16.0	17.0	19.0
無		17.0	6.0	1.0

一

肢	学年	5	6	中 1
①		38.0	36.0	50.4
2		19.0	19.0	8.1
3		20.0	25.0	28.3
4	×	6.0	6.0	6.1
5	×	10.0	13.0	7.1
無		7.0	1.0	0

二

肢	学年	中 1	2	3
1	×	12.1	6.5	6.7
2		17.2	19.6	17.1
3		22.2	20.6	18.1
④	×	21.2	19.6	23.8
5	×	27.3	33.7	33.3
無		0	0	1.0

三

肢	学年	5	6	中 1
1	×	3.0	3.0	10.0
2		17.8	21.0	10.0
③		24.8	18.0	37.0
4		25.7	19.0	17.0
5		22.8	34.0	26.0
6		5.9	5.0	0

一四

肢	学年	中 2	3
①		13.1	16.2
2		9.3	12.4
3	×	4.7	11.4
4	×	51.4	41.9
5		19.6	18.1
無		1.9	0

一六

肢	学年	5	6	中 2	3
1		10.0	7.0	10.4	11.4
2	×	15.0	30.0	27.4	17.1
③		30.0	17.0	23.5	39.1
4		23.0	22.0	27.4	14.3
5		11.0	17.0	9.4	18.1
無		11.0	7.0	1.9	0

一七

肢	学年	中 1	2
1		22.0	18.7
2		23.0	23.4
3		15.0	12.1
④		26.0	41.1
5		13.0	4.7
無		1.0	0

第3.6表 (つづき)

問額	学年	上位者 群 P ₁	下位者 群 P ₂	平均	P ₂ -P ₁	
(その三)	六	2 4 6 9	40 72 100 100	12 56 56 68	34.6 63.0 80.8 90.3	28 × 16 44 × × 32 × ×
	七	2 4 6 9	12 52 80 92	0 8 8 32	9.2 27.0 57.6 67.0	12 44 × × 72 × × 60 × ×
	九	2 4 6 9	0 24 68 84	0 8 20 36	2.0 20.0 44.4 64.1	0 16 48 × × 48 × ×
	一二	2 4 6 9	0 36 56 92	4 4 16 20	2.0 16.0 31.2 52.4	-4 32 × 40 × 72 × ×
一三	2 4 6 9	4 20 60 84	0 8 24 36	3.1 13.0 27.2 55.3	4 12 36 × 48 × ×	
一六	2 4 6 9	0 24 48 68	0 0 20 12	0 12.0 21.2 32.0	0 24 × 28 × 56 × ×	
一七	2 4 6 9	0 16 36 76	0 4 12 12	0 13.0 19.1 35.9	0 12 24 64 × ×	
一八	2 4 6 9	0 0 20 64	0 0 12 12	0 5.0 13.1 30.0	0 0 8 52 × ×	
二〇	2 4 6 9	0 0 32 88	0 0 28 24	0 2.0 22.0 43.6	0 0 4 64 × ×	

以上の結果は大体満足すべきものである。ただ困難度が高くなると低学年について選別力のなくなるものがあるが、このような問題はその学年の検査問題にはいれてはならないわけである。

選択肢の反応分析 妥当性や適応性のない問題については、その問題の各選択肢に何%の児童生徒が答えているかを分析することによって、その原因をすることができる。また妥当性や適応性が相当みられるものについてはそれを更に高めるために、十分なものについては更にそれを確かめるために選択肢の反応分析をおこなつた。

つぎの観点からしらべることにした。

- 無反応または反応のきわめてすくない、選択肢はないか。
- ある限られた選択肢にのみ答解数が集中していることはないか。
- 困難度が平均通過率30%以上の問題で正答の選択肢よりも多くの反応を示した選択肢はないか。
- 困難度が平均通過率20%以下の問題では、当然正答の選択肢よりも多くの答解数をもっている選択肢がかならずあることになる。この

ような問題でも平均通過率が高くなるにつれて、正答の選択肢に多くの人数が入るようになるはずである。

これらの結果は第3.7表のとおりである。

一九

学年	中	2	3
1		15.7	12.5
2	×	19.4	31.8
③		27.8	24.0
4	×	27.8	19.2
5		9.3	11.5
無		0	1.0

二〇

学年	中	1	2	3
1		15.3	17.6	26.7
②		16.3	15.7	13.3
3	×	54.1	53.7	44.8
4	×	9.2	6.5	5.7
5	×	4.1	6.5	8.5
無		1.0	0	1.0

第3.7表(2) 選択肢の反応分析表 (その二)

一

学年	2	
1	14.1	
2	×	9.1
③	36.4	
4	30.3	
5	×	9.1
無	1.0	

二

学年	2	3
1	33.7	22.8
2	16.8	20.8
3	17.8	6.9
4	8.9	13.9
⑤	18.8	34.6
無	4.0	1.0

三

学年	2	3	4	
1	×	4.1	2.0	4.0
2		17.5	12.0	5.0
3		37.2	15.0	30.7
④		24.7	45.0	50.4
5		12.4	24.0	8.9
無		4.1	2.0	1.0

四

学年	2	3
1	19.0	26.5
②	38.0	52.1
3	12.0	12.2
4	13.0	5.1
5	12.0	3.1
無	6.0	1.0

五

学年	3	4
1	10.9	18.6
2	29.6	12.7
3	23.8	16.7
④	19.8	33.3
5	14.9	16.7
無	1.0	2.0

七

学年	3	4	
1	12.7	11.9	
2	×	15.7	5.9
3	22.5	21.8	
4	×	18.6	4.0
⑤	25.6	53.4	
無	4.9	3.0	

八

学年	3	4	
①	42.0	48.4	
2	20.0	15.8	
3	16.0	14.9	
4	×	9.0	14.9
5	×	9.0	4.0
無	4.0	2.0	

九

学年	4	中	1
1	×	56.4	46.8
2	×	5.9	2.1
3	×	3.0	7.3
④		26.7	43.8
5	×	5.0	0
無		3.0	0

一一

学年	6	中	1	3
1	30.3	33.1	23.1	
2	×	23.2	26.8	33.6
3	14.1	11.3	7.7	
④	26.3	20.6	30.8	
5	×	6.1	7.2	4.8
無		0	1.0	0

一二

学年	6	中	1	3
1	10.1	14.1	10.2	
2	14.1	14.1	21.3	
③	22.2	24.3	29.6	
4	18.3	23.2	25.9	
5	13.1	15.2	10.2	
無	22.2	9.1	2.8	

一三

学年	中	1	2	3
1		30.2	13.1	16.2
2		19.8	19.6	21.9
3		14.6	16.8	14.3
④		22.9	33.7	33.3
5		11.5	15.9	13.3
無		1.0	0.9	1.0

一四

肢	学年			
	中	1	2	3
1	×	22.9	16.8	31.4
2		12.5	15.9	10.5
③		15.6	14.0	12.4
4	×	9.4	11.2	6.7
5	×	38.6	42.1	38.0
無		1.0	0	1.0

一六

肢	学年			
	中	1	2	3
1		18.8	11.2	13.5
2		13.5	9.3	9.6
③		32.3	36.4	43.2
4		9.4	10.3	13.5
5		26.0	32.7	20.2
無		0	0	0

一七

肢	学年			
	中	1	2	3
1	×	14.3	9.3	20.6
②	×	29.6	14.8	16.8
3		25.5	14.8	15.9
4	×	14.3	22.2	21.5
5	×	16.3	38.9	25.2
無		0	0	0

一八

肢	学年			
	中	1	2	3
1		9.4	16.8	12.4
②		25.0	15.0	15.2
3	×	21.8	23.4	36.2
4		18.8	12.1	11.4
5	×	25.0	32.7	24.8
無		0	0	0

一九

肢	学年			
	中	1	2	3
1		3.0	5.6	10.5
2		19.2	13.1	9.5
3		32.4	25.2	20.0
4		13.1	12.1	14.3
⑤		31.3	43.1	45.7
無		1.0	0.9	0

二〇

肢	学年			
	中	1	2	3
①		24.0	28.3	55.1
2		15.6	13.2	8.6
3		9.4	13.2	10.5
4		13.5	15.1	2.9
5		37.5	28.3	21.9
無		0	1.9	1.0

第3.7表(3)

選択肢の反応分析表 (その三)

一

肢	学年			
	2	3	4	
1	×	14.1	12.0	5.0
②		39.5	38.0	41.0
3		27.3	24.0	39.0
4		14.1	18.0	12.0
5	×	3.0	7.0	3.0
無		2.0	1.0	0

二

肢	学年			
	4	6	中 2	
1		34.0	15.2	6.5
2	×	16.0	5.1	5.6
3		23.0	34.3	25.0
④		18.0	36.3	58.3
5	×	7.0	9.1	4.6
無		2.0	0	0

四

肢	学年			
	2	3	4	
1		24.2	28.3	21.0
②		27.3	40.4	51.0
3		15.2	13.1	8.0
4		13.1	9.1	5.0
5		13.1	8.1	10.0
無		7.1	1.0	5.0

五

肢	学年			
	4	5	6	
1		27.0	17.0	23.2
②		46.0	69.0	65.7
3		13.0	7.0	8.1
4	×	8.0	5.0	0
5	×	6.0	2.0	3.0
無		0	0	0

六

肢	学年	
	6	
①	49.0	
2	×	5.0
3	26.0	
4	10.0	
5	×	8.0
無	2.0	

七

肢	学年		
	3	5	
1	12.0	11.0	
2	×	29.0	13.0
3	8.0	15.0	
4	25.0	21.0	
⑤	24.0	40.0	
無	2.0	0	

九

肢	学年				
	4	5	6	中 1	
1	30.3	35.0	35.0	34.0	
2	×	9.1	9.0	6.0	1.0
3	16.2	14.0	8.0	5.0	
④	20.2	22.0	42.0	55.0	
5	×	14.1	20.0	9.0	5.0
無	10.1	0	0	0	

一〇

肢	学年		
	中	1	2
1	×	46.5	36.5
2		11.1	14.0
3	×	4.0	8.4
④		12.1	17.7
5		25.3	21.5
無		1.0	1.9

一一

肢	学年		
	5	6	中 3
①	35.0	66.7	62.7
2	16.0	12.1	22.5
3	31.0	9.1	6.9
4	×	4.0	1.0
5	11.0	9.1	4.9
無	3.0	2.0	1.0

一二

肢	学年		
	5	6	中 1
1	×	38.0	36.4
2		11.0	11.1
3		16.0	7.1
④		15.0	33.3
5	×	16.0	11.1
無		5.0	1.0
			34.3
			13.1
			17.2
			29.3
			6.1
			0

一三

肢	学年		
	5	6	中 1
1	15.0	10.1	4.0
2	14.0	20.2	13.1
3	37.0	31.3	31.3
④	18.0	26.3	34.4
5	10.0	11.1	17.2
無	6.0	1.0	0

一四

肢	学年		
	中	1	2
1		20.0	8.4
2	×	2.0	0.9
3		33.0	39.3
4		21.0	13.1
⑤		24.0	38.3
無		0	0
			4.9
			2.0
			25.5
			8.8
			58.8
			0
			0
			0

一六

肢	学年		
	中	1	2
1		36.3	29.1
②		17.2	25.2
3		11.1	18.7
4		15.2	9.3
5		20.2	16.8
無		0	0.9
			23.5
			32.4
			13.7
			8.8
			20.6
			1.0

一七

肢	学年		
	中	1	2
1		19.4	28.0
2		40.8	32.8
③		22.4	24.3
4	×	8.2	5.6
5	×	8.2	9.3
無		1.0	0
			18.6
			27.5
			36.2
			6.9
			10.8
			0
			0

一八

肢	学年	
	中	2
1	×	6.5
2		34.3
③		35.6
4	×	5.6
5		28.0
無		0
		8.8
		28.4
		33.4
		8.8
		20.6
		0
		0

二〇

肢	学年		
	中	1	2
①		15.3	26.2
2	×	10.2	10.3
3		39.8	24.3
4	×	13.3	11.2
5		21.4	28.0
無		0	0
			46.0
			6.9
			21.6
			6.9
			18.6
			0
			0

第3.7表のうち×印のものは修正したものである。どのように修正したかの具体的な記述は省略する。

Ⅱ 第二次予備テスト問題の構成

つぎのような観点から 第二次予備テストの問題を構成した。

- (1) 問題は 2年生・3・4年生共通・5・6年生共通・中学1・2・3年生共

通の四種類とする。基準成績は学年別にもとめる。

- (2) 問題数はテストその一・その二・その三のそれぞれに10題とする。ただし2年生用のものだけはこのようにわけず、その一・その二・その三よりそれぞれ5題ずつを一つにまとめ15題とする。
- (3) 困難度はその一・その二・その三ごとにそれぞれ平均通過率を50%前後にし、得点の分布ができるだけ正常分配曲線をえがくようにする。このようにすれば、成績のよいものにもわるいものにも、同じ程度の弁別性を保持することができる。しかし二ないし三学年で同一問題を答解する場合には、上位学年を正答率50%にすれば当然下位学年はそれ以下となり、下位学年を50%にすれば上位学年は50%以上をとる。その際50%よりはなれる度合をできるだけすくなくするため、たとえば3・4年共通問題は3・4年の合計が50%であるようにした。
- (4) 問題別の困難度は、きわめてやさしいものから、きわめてむつかしいものまでのすべてを段階的にふくむようにした。このため第3.9表のように、それぞれ困難度のことなる問題をえらんで、やさしいものから順に配列した。
- (5) 妥当性・適応性・選択肢の適否について、できるだけこれらの条件を満足している問題をえらんだ。こうすることによってテスト全体の妥当性・適応性・信頼性を高めようとしたのである。
- (6) 全学年の文章読解力を比較し得るように、四～五個の共通問題をふくませた。

以上のようにしてえらんだ個々の問題について、更に困難度を調整したり、適応性をたかめるために、選択肢の修正・問題文の修正をおこなった。

第一次予備テストの問題より、第二次予備テストの問題としてえらんだものは第3.8表のとおりである。それらをえらんだ基準の一つとしての困難度の予想は第3.9表のとおりである。

実際の問題は紙数の都合上省略する。本テストの問題と大体おなじものである。

第3.8表 第二次予備テストに採択した問題

その一

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
学年																					
小 2 年	○	○	○	○	○																
3.4 年	○	○	○	○	○				○		○										
5.6 年	○	○	○	○	○				○		○	○	○					○			
1.2.3 年		○	○		○				○		○		○				○	○		○	○

その二

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
学年																					
2 年	○	○		○			○	○													
3.4 年		○		○	○		○	○	○		○										
5.6 年		○		○	○		○	○	○		○	○									
中1.2.3年				○	○		○	○	○				○				○	○	○	○	

その三

問題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
学年																					
小 2 年		○		○																	
3.4 年	○	○		○	○		○	○	○		○										
5.6 年	○	○		○	○		○	○	○		○	○									
中1.2.3年		○		○	○				○				○	○	○		○		○		○

第3.9表 第二次予備テスト問題の困難度の予想

テスト	学年	100~90	89~80	79~70	69~60	59~50	49~40	39~30	29~20	19~10	9~0
テストその一	2 年							3 (41.8)	← 1 (27.5)	4 (14.2)	
	3.4 年	新	新	新		← 3 (57.5)	← 1 (35.0)	5 (24.0)		11 (8.0)	
	5.6 年	新		← 3 (73.4)		← 4 (56.8)	5 (44.2)	11 (35.1)	13 (21.1)	17 (17.1)	12 (10.1) →

	中学	←3 (83.0) 2 (83.6)	←9 (68.5) 5 (61.5) 11.....→ (60.1)		←13 (36.0) 17 (34.1)	16 (29.3) 19.....→ (22.8)	20.....→ (15.1)	
テ ス ト そ の 二	2年				←4 (38.7) 1 (36.7)	2 (20.4) 7 (14.2)		8 (10.2) →
	3・4年	新 新 新	4 (60.5) 2 (50.0) 7 (47.5)		8 (40.0) →	5 (32.5) 9 (24.0) →		11 (9.1)
	5・6年	新	4 (80.9) 2 (71.9) 7 (65.3) 5 (56.3) → 8 (67.3) →		9 (31.7)	11 (20.6) 12 (17.1)		新
	中学	4 (90.6) 7 (81.2) 8 (80.3) →	5 (62.8)	←9 (40.5) ←16 (37.2)	19 (33.7) 17.....→ (20.1)	13 (29.4) 17.....→ (20.1)	18.....→ (16.8)	
テ ス ト そ の 三	2年					4 (27.5) 2 (12.2)		
	3・4年	新 新 新	←.....	1 (40.2) ←5 (46.5) 4 (44.5)		←7 (25.5) 2 (16.6) 9 (16.0) 12.....→ (13.0)		
	5・6年	新	←5 (66.8) 4 (65.7) ←.....	←7 (46.7) 1 (44.2)	←2 (38.7) 9 (33.1)	12 (22.6) 13.....→ (22.1)	11 (13.1)	
	中学	←4 (82.3)	←5 (76.5) ←9 (62.3)	←2 (57.1) 14 (40.6)	←13 (46.1) 12 (38.4)	18 (27.4) 16.....→ (23.2) 20.....→ (27.7)		

3.3.3

第二次予備テスト

第二次予備テストの目的は、妥当性・適応性・信頼性・困難度・時間をみる
ことである。

日時 昭和26年9月19～21日

場所 中蒲原郡 丸山小学校

西蒲原郡 小針小学校

新潟市 山ノ下中学校

中蒲原郡 大江山中学校

被験者 小学校 2・3・4・5・6 年生

各学年約 100名

中学校 1・2・3 年生

各学年約 100名

第一次予備テストのときとおなじように、所員が実施校にでむいてテストの実施方法について打合わせをおこない、実施は各学校にまかせた。

実施上の注意、調査事項は第一次予備テストの際と同じである。ただ実施日時はそれぞれの学年とも一日で実施した。

この結果は第3.10表のとおりである。

第3.10表 第二次予備テストの結果

学年 項目	小 2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	中 1 年	2 年	3 年
平均	4.5(30.0)	11.9 (39.8)	12.6 (42.1)	11.7 (39.1)	14.5 (48.3)	12.4 (41.7)	15.6 (51.1)	15.2 (50.2)
分散	9.93	18.34	22.55	15.82	26.35	19.11	21.54	30.79
標準偏差	3.15	4.81	4.75	3.98	5.13	4.37	4.64	5.55
信頼度	0.73	0.63	0.73	0.57	0.74	0.64	0.80	0.78
検査人員	100	100	100	100	99	108	111	109

平均の()は100点満点に換算した時の得点

信頼度はリチャードソン・キューダーの公式(Richardson Kuder's' Formula)によって算出したものである。部分的には低すぎるものもあるが、問題を修正することによってもっと高い信頼度係数を得ることができると思われるので、問題構造を修正する必要は認められない。この他、得点の度数分布、問題についての上位学年、下位学年の得点の比較・上位群下位群分析・選択肢に対する反応分析等をおこなったが結果のくわしい記述は省略する。この結果小学校2年については問題の難易度に難点があるので、なお第三次予備テストをおこなうことにした。他の学年については個々の問題に修正すべき点は認められる

が、他は大体満足すべき結果を得た。時日の関係もあって修正した問題について第三次予備テストはおこなわないことにした。

3.3.4 第三次予備テスト

第二次予備テストの結果、小学校2年用の問題は困難度がきわめて高く不十分であったので、問題を修正して第三次予備テストをおこなった。

問題の困難度が高すぎることにについて、実施した教師および児童の意見を総合すると、つぎのような点があげられる。

- (1) 五十人の集団テストになれていない。
- (2) 文章読解力のみについてテストをうけたことがないので、文字の羅列からくる圧迫感が大きい。
- (3) 時間がかかりすぎて、10分くらいからさわがしくなり音読をするものもでてくる。一通りおわっても、読みかえして修正するものがほとんどない。
- (4) 総じて このテスト問題は形式内容の両面について2年生の読解能力より高すぎる。

これらの意見をもとにして、つぎの点を修正した。

- (1) 繪による選択肢の問題をもっとふやす。
 - 文字の圧迫感からの開放
 - 選択肢を読んでいるうちに問題文をわすれてしまうような児童にとって、直観的に端的に問題を把握できるようにする。
- (2) 問題の数をへらして10題にする。
- (3) むつかしい問題をすて、やさしい問題を加える。
- (4) 選択肢の数をへらして三つにする。
- (5) 練習をもっと多くし、その練習のしかたをこまかく規定して、答解法がわからぬ児童がないようにする。かならず補助員をつけるようにする。
- (6) テストの所要時間をもっと少なくする。これは上記(1)(2)(3)(4)にのべたようにすることによって達成される。

以上のような方針で問題を構成しなおした。できあがった問題は省略する。本テストに使用したものと大きなちがいが無い。

I テストの実施

日 時
場 所 中蒲原郡 大淵小学校
中蒲原郡 横越小学校
被検者 小学校2年生 100名

II 結果

テストの結果は第 3.11 表のとおりである。

第 3.11 表 第三次予備テスト成績表

項 目	小 2 年
平 均 \bar{x}	5.40
分 散 s^2	4.28
標 準 偏 差 s	2.069
検 査 人 員 n	100

困難度については大体目的を達したものと思われる。

妥当性 妥当性の検定の方法のうち、このテストの得点と学校における教師の国語学力の評価との相関をみることにした。

被験者は二ヶ校とってあるので、教師の評価はこれを一括することには問題があるので一ヶ校のみ算出した。その結果は第 3.12 表のとおりである。

第 3.12 表 テスト成績と教師の評価との相関係

テスト 教師	0.12	3.4	5.6	7.8	9.10	計
- 2	2	—	2	—	—	4
- 1	4	1	2	1	—	8
0	—	7	5	4	3	19
+ 1	—	1	5	7	1	14
+ 2	—	—	1	3	1	5
計	6	9	15	15	5	50

$$r=0.542$$

教師の評価はこのテストで測定しようとする能力を含めてきわめて広い範囲のことを評価しているのである。それでたとえ教師の評価が正確であったとしてもこのテストとどの程度の相関をもつたらよいかということには疑問がある。漢字の読み書き能力についての相関は相当高くなると予想されるが、文章読解力については相関係数はやや小さくなるのではなかろうか。教師の評価の文章読解力の測定がどの程度適確になされているかに問題があるからである。したがってこの相関係数の解釈には明確な結論がだせないのであるが、当初われわれが期待していたものよりは低い。

適応性 上位群下位群分析の結果は第3.13表のとおりである。

第3.13表 第三次予備テスト上位群下位群分析

	上位群P ₁	中位群P ₂	下位群P ₃	平均	P ₁ -P ₂	P ₂ -P ₃	P ₁ -P ₃
一	100 (%)	92	48	83	8	44 × ×	52 × ×
二	92	74	42	73	18 ×	32 ×	50 × ×
三	100	72	60	76	28 × ×	12	40 × ×
四	88	72	24	64	16	48 × ×	64 × ×
五	92	64	16	59	28 ×	48 × ×	76 × ×
六	48	38	8	53	10	30 × ×	40 × ×
七	76	54	12	49	22	42 × ×	64 × ×
八	88	58	24	57	30 ×	34 ×	64 × ×
九	32	12	12	17	20	0	20 ×
〇	64	20	12	29	44 × ×	8	52 × ×

一般に上・中位群を弁別することに難点があるといえる。また困難度の高い問題九、〇は中・下位群間に弁別性がみられない。

信頼性 Richardson-Kuders' Formula

$$r = \frac{n}{n-1} \cdot \frac{s^2 - npq}{s^2}$$

n: 問題数
 s^2 : 分散
 $p = \frac{\bar{x}}{n}$
 $q = 1 - p$

によって算出すると

$$r=0.47$$

を得る

この信頼度係数は第二次予備テストと比較してきわめてひくくなっている。

この原因は主として

- 問題数をへらしたこと
- 選択肢の数をへらしたこと

によるものと思われる。とにかくこの結果は満足すべきものではない。

選択肢の適否 問題毎に選択肢に対する反応分拆をおこなってみると第3.14表のとおりである。

第3.14表 選択肢反応分析表 (○印 正答選択肢)

問題 人数 選択肢	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1	7	6 ○ 78	11	24	37 ○ 50	17	○ 18	41		
2	○ 85	15	7 ○ 64	9	○ 34	22	15	22	○ 28	
3	5	○ 71	8	14	○ 57	22	14	○ 57	47	21
無	3	8	7	11	10	7	14	11	13	10

この結果選択肢を修正した問題は五・九・十である。

以上の結果を総合すると、この2年生用テストは信頼性は低い。問題個々のものを検討すればそれほど不適当な問題もないようであるから、この信頼性の低いことはテストの問題構造によるものであろう。その点からさきに二点を指摘したのであるが、それを修正すると再び第二次予備テストの問題に近くなる。そして困難度が問題になってくる。ここで考えられることは、小学校2年生に対する問題としてはこのような問題構造のテストはあまり適当でないことになる。そしてそれはつぎに作成を予定している、1年生用テストと一しょにした方がよいようである。ここで本テストの対象から小学校2年生をのぞくかどうかについて論議した。結局つぎの問題作成の資料を得る意味から本テストは2年生にも実施することにした。

3.3.5 てきあがった問題

以上のような過程をへて本テストのための検査問題がてきあがった。てきあがった問題はつぎのとおりである。(原文たて書き)

なおこの印刷のためにとくに活字の大きさが問題であるがこの点について草島^(註3)氏の実験結果を参考にした。それにはつぎのように述べてある。

第一学年には、最高号の活字がもっともよく、号を下るにしたがって読字率は下る。

第二学年においては、活字は、一号、二号、三号がもっともよい。評定すれば、新しく教える文章は、第一号をもって印刷し、その後の練習あるいは程度の低い課外読物は、第三号がもっとも適当と信ずる。

第三学年生においては、新しく教える読本の文は、第三号活字を用いるのがよい。そして、練習あるいは、課外読物の復活に属するものでは、第四号活字を用いるのが最適である。

第四学年生においては、前学年と同様、新しく教授する文字、文章は、第三号がもっともよく、練習や課外読物には、第四号が適当である。

第五学年においては、前学年同様、第三号を読本の本文に使用し、練習用としては、第四号を用い、またわずかに、第五号を加味してもよい。しかし漢字の多い文章またはやや程度の高い文章では、もちろん第五号は不適当である。

第六学年においては、第三号および第四号が、もつとも適当であり、すこぶる平易な文章においては、五号を使用し得る。

この結果を参考にして活字の大きさはつぎのようにした。

小学校2年用 3号

3.4年用 4号

5.6年用 問題文 4号

選択肢 5号

中学生については実験結果がなかったので5号をもちいた。

また 小学校2年用、3.4年用 のものはおくれた児童にとっては字体は活字よりも肉筆の方がしたしめると考えて肉筆とした。写真印刷にする際縮小したが、その時の寸法をあやまって字体がすこし小さくなりすぎたきらいがある。

註3. 草島時介外二氏「どうすれば早く上手に読めるか」

新潟県教育研究所編
文章読解力検査

小学校2年用

姓名 番
(なまえ) (ばん)

男女 学校
(おとこ) (めい) (がっこう)

小学校2年 くみ

誕生日 昭和 年 月 日 検査日 昭和 年 月 日

得点	パーセンタイル	偏差値	評定段階

れんしゅう

一 つばめが とんでいます。 すいすいと、 とんできて、 ぐるりと ちゅうがえりをします。

どの えの こと で しょう。

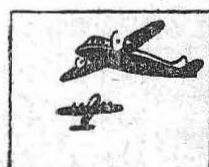
1



2



3



二 すずしい かぜが ふくと こいのぼりが けんきよく おどります。

これは なにについて かいたのでしょうか。 だいじなことを さがしなさい。

1 すずしいこと。

2 けんきのよいこと。

3 こいのぼりのこと。

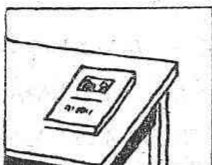
(十九分)

- 一 つくえの うえに ほんが あります。
どの えの ことでしょう。

1



2



3



- 二 あおい そら ひろい のはら, みんなで なかよく なわとびしまし
ょう。
どの えの ことでしょう。

1



2



3



- 三 ゆうやけで ^{そら}空が あかい。 からはが おうちへ とんでいく。
なにが あかい のですか。

1 からす。

2 ^{そら}空。

3 おうち。

- 四 こやぎが こやを とびだしました。 くびに ながい つなを つけて
います。 それを みて, めんどりが はしってきました。 めんどり
は あかい リボンをつけています。

こやぎの くびには なにが ついて いますか。

1 かわいい くびわ。

2 あかい リボン。

3 ながい つな。

五 よしちゃん、ぼくは いま ^{やま}山の おじさんの ところへ きて います。とても すずしいです。べんきょうが すむと、むしとりを します。ばったや こおろきが います。むしあつめを して、よしちゃんにも あげましょう。 すずむより

すずむは よしちゃんと なかよしです。どこで わかりますか。

- 1 むしあつめを して よしちゃんにも あげましょう。
- 2 ぼくは 山の おじさんの ところへ きて います。
- 3 むしとりを します。

六 きのう ただしくんと ふねを つくりました。あかい ほを はりました。いけに うかべると、すいすい はりました。

これは なにに ついて かいたので しょう。いちばん だいじな ことを さがしなさい。

- 1 あかい ほのこと。
- 2 きのう ふねを つくったこと。
- 3 いけのこと。

七 「みつばちさん、こんにちわ。」

「やあ、ちょうちょさん、こんにちわ。」

「あなたは いつも はねを ふんぶん ならして、いそがしそうですね。」

「ぼくは、からだの ^{おほ}大きさに くらべて、はねが ^{ちい}小さいので、はやく はねを うごかさないと、とべないんだよ。」

「まあ、そうなの。わたしたちは いじわるなものに みつからないように 大きな はねで そっと とぶのよ。」

ちょうちょさんの はねは どうですか。

- 1 はねを はやく うごかして とぶ。
- 2 いじわるなものに みつからないように、そっととぶ。
- 3 ふんぶん ならして いそがしそうだ。

八 子つばめたちが そだって、すから とびたつ 日が きました。も

う くちばしもきいろくありません。^{そら}空の はれた 七月の あさです。
子つばめたちは、みんな あたらしい 白い ちょっきに くろい が
いとうです。おやつばめが うれしそうに さきに たって とぶと、
子つばめたちも ぱっと とびだしました。

おやつばめは どんなきもちでしょう。

1 子つばめは かわいいなあ。

2 みんなで なかよく あそぼうよ。

3 子つばめも ひとりで とべるようになって、うれしいなあ。

し からすが にくを くわえて 木の えだに とまっていた。そこへ
きつねが きて、「からすさん あなたの はねは きれいだこと。き
つと あなたの こえも いいでしょうね。」といった。からすが い
ばって「かあ。」と、ひとこえ なくと、くわえて いた にくが
したへ おちて、きつねに とられて しまった。

このはなしは わたしたちに、どういふ ことを おしえて いるでし
よう。

1 にくや たべものは だいに しなければ ならない。

2 いいきになって いばると、からすみだいに しくじる。

3 きつねの ように ひとの ものを とっては いけない。

ポストに 入れた てがみは、ゆうびんやさんが あつめて ゆうびんき
よくに もって いきます。それから きしゃで とおくに いる 人の
ところへ はこべれます。

これは なにに ついて かいた のでしょう。いちばん だいじなこ
とを さがしなさい。

1 てがみのこと。

2 とおくに いる 人のこと。

3 ゆうびんやさんのこと。

新潟県教育研究所編

文章読解力検査

(A)

小学校3.4年用

姓名 (姓を先) 番 男女 小学校 年 組
誕生日 昭和 年 月 日 検査日 昭和 年 月 日

得点				パーセント タイトル	偏差値	評定段階
一	二	三	計			

テストその一 (三年二十分 四年十七分)

れんしゅう

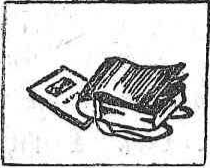
すずしい 風が ふくと こいのほりが 元気よく おどります。

- 1 風が ふいて いること。
- 2 すずしいこと。
- 3 元気のよい こどものこと。
- 4 こいのほりのこと。
- 5 おもしろい おどりのこと。

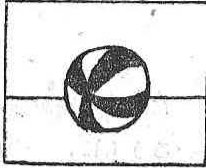
— つくえの 上に 本が あります。

どの えの ことですか。

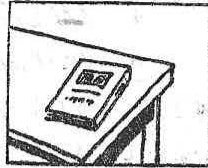
1



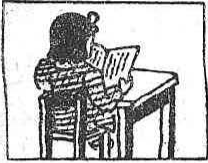
2



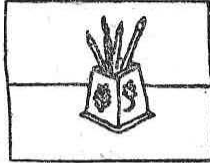
3



4



5



二 あおい 空、ひろい のはら、みんなで なかよくなわとび しま
しょう。

どの えの ことですか。

1



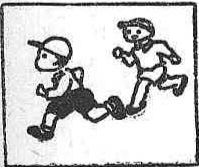
2



3



4



5



三 あさがおの ^{ヒナ}花が ほつかり、さいて います。あかい花、白い花、
こびとの ラップの ようです。

1 あかい 花のこと。

2 ラップを ふいたこと。

3 あさがおの 花のこと。

4 こびとのこと。

5 白い花のこと。

四 ゆきが ふりだしました。 たかい ^{そら}空から、あとから あとからと まいおりて きます。見て いるうちに、 やねも のはらも まっ白になりました。

1 さむいこと。

2 のはらのこと。

3 やねのこと。

4 空のこと。

5 ゆきのこと。

五 きのお ただしくんと、 ふねを つくりました。 あかい ほを はりました。 ^{いけ}池に、うかべると、 すいすい はしりました。

1 ふねを つくって あそんだこと。

2 あかい ほのこと。

3 池のこと。

4 ただしくんのこと。

5 ただしくんと はしたたこと。

六 まさおくんのえ本はきれいです。 え本には ^{ごしや}汽車のえがかいてあります。 ふねのえもかいてあります。

1 きしやのこと。

2 まさおさんのえ本のこと。

3 おもしろいおはなしのこと。

4 ふねのこと。

5 まさおさんのこと。

七 ^{ごしや}汽車の ^{じかん}時間がきたので、 まちあいつはだんだんにぎやかになってきます。 にもつを ^{おとこ}しよった男の人、 きれいな ^{おんな}ふくをきた女の人、 ふくろをさげたおじいさんなどもはいてきました。

1 にもつを ^{おとこ}しよった男の人のこと。

2 きれいなふくをきた女の人のこと。

3 ふくろをさげたおじいさんのこと。

4 汽車がきたこと。

5 まちあいしつがにぎやかになったこと。

八 ポストに入れた手紙^{てがみ}は、ゆうびんやさんがあつめて、ゆうびんきょくへもっていきます。それから、汽車でとおくにいる人のところへはこばれます。

1 ポストのこと。

2 とおくにいる人のこと。

3 手紙のこと。

4 ゆうびんやさんのこと。

5 汽車のこと。

九 一八一四年にドイツ人のケーヒがじょうきの力でうごかすいんさつ機^きを發明^{はつめい}しました。そのころ新聞^{しんぶん}は手でうごかすきかいですつていましたが、このケーヒのきかきをつかうと一時間に千百まいもすれました。これは、それまでの四ばいも多くすれたのです。

1 新聞のできたのは一八一四年だということ。

2 むかしの新聞のすりかたのこと。

3 新聞をするいんさつ機のこと。

4 ケーヒの發明したいんさつ機のこと。

5 新聞は、一時間になんまいすれるかということ。

十 「はえ」はうるさくても、人をさしたりしないから、人にくるしみをあたえることは少^{すくな}いけれども、「か」は人をさし、またなくので、そのことだけについていえば、「はえ」よりもたしかにうるさくいやな虫です。夏^{なつ}のあいだに、人が「か」のためにしごとのじゃまをされることは大したものです。

「はえ」はうるさくても人をさしたりしないこと。

人は「か」のためにしごとのじゃまをされること。

「はえ」はうるさいが「か」よりましなこと。

4 「か」は「はえ」よりもいやなこまった虫であること。

5 「はえ」も「か」もりょうほうとも、いやな虫であること。

テストその二 (三年 二〇分
四年 一六分)

一 きょうは^{あめ}雨ふりで、あそびにでられません。いもうとににんぎょうのえをかいてやりました。

・ ほかのかいたえはどれでしょう。

1



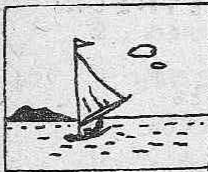
2



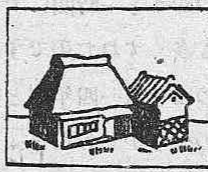
3



4



5



二 みんなでままごとをしました。わたしがおかあさんになりました。よしこさんとまさおさんは、おきゃくになりました。みどりさんとおとうとは、おみせやさんになりました。

・ おかあさんになったのはだれですか。

1 よしこさん。

2 わたし。

3 まさおさん。

4 おとうと。

5 みどりさん。

三 川の上を、すずしい^{かぜ}風がふいています。空では、^{そら}おほしさまが

おはなしでも しているように、 ぴかぴか ひかっています。

おはなしを しているように みえるのは なんですか。

- 1 川。
- 2 かぜ。
- 3 そら。
- 4 おほしさま。
- 5 ほたる。

四 「まさお。」と、 よばれて おとうさんの おへやへ きました。おとうさん のつくえの 上には しんぶんが ありました。おとうさんは 朝から はがきを かつきづけて いらっしやいます。

まさおが おへやへ いった時、 おとうさんは なにをして いらっしやいましたか。

- 1 しんぶんを よんでいた。
- 2 はがきを かいていた。
- 3 本をよんでいた。
- 4 「まさお」とよんだ。
- 5 おへやで ねていた。

五 ぼくは 木で ^{くるま}車をつくりました。くるくる まわる 車です。ただ しくんは、 ボール紙^{がみ}で、じどうしゃの かたちを きりぬきました。よしこさんは、 うんでんしゅと おきゃくを つくっています。もう じき できあがります。はやく できるのが たのしみです。

三人は なにを つくって いるのでしょうか。

- 1 ^{きしや}汽車。
- 2 ていしやば。
- 3 ^{ばしや}馬車。
- 4 みすぐるま。
- 5 じどうしゃ。

六 けさから、 風^{かぜ}がつよくふきだした。教室^{きやうしつ}にはこりがはいってきて、 やすみ時間ごとに、 ぬれぞうきんでつくえをふいた。きょうは五人やす

んだ。かぜをひかないようにと、先生からちゅういがあった。よくうがいをしようと、みんなではなしあった。

先生のちゅういはどれですか。

- 1 風がつよくふいてきたこと。
- 2 ぬれぞうきんでつくえをふくように。
- 3 よくうがいをするように。
- 4 かぜをひかないように。
- 5 五人やすんでしまったこと。

七 ローレンス先生のとりにすんでいられるアレンさんは、おいしゃさんでしたが、今はしごとをこどもさんにゆずって、^{まいにち}毎日にわでばらの^{てい}手入れをしたり、しすかなへやで本をよんだりしています。

ばらの手入れをしたり本をよんだりしている人はだれですか。

- 1 アレンさん。
- 2 ローレンス先生のこどもさん。
- 3 アレンさんのこどもさん。
- 4 ローレンス先生。
- 5 アレンさんのとりの人。

八 「みつばちさん、今日わ。」

「やあ、ちょうちょさん、今日わ。」

「あなたは、いつもはねをぶんぶんならしていそがしそうですね。」

「ぼくはからだの大きさにくらべて、はねが小さいので、はやくはねを動かさないととべないんだよ。」

「まあそうなの。わたくしたちは、いじわるなものにみつからないように、大きなはねでそっととぶのよ。」

ちょうちょうさんのはねはどうですか。

- 1 からだの大きさにくらべて小さい。
- 2 まっ白できれいだ。
- 3 いじわるなものにみつからないようにそっととぶ。
- 4 ぶんぶんいそがしそうだ。

5. はねをはやく動かしてとぶ。

九 つきみそうに明かるい川のどて。

風もふかないしすかな夕ぐれだ。

つきみそうが川そこに、

あざやかな色でしすんでいる。

どんなところにつきみそうがさいていましたか。

1 川のそこ。

2 どて下の^{くさはら}草原。

3 しすかな夕ぐれの小道。

4 川のどて。

5 しすんでいる。

十 この間^{あいだ}まで^な菜の花と^{むぎ}麦とで、^{あお}きいろと^{あお}青のうつくしいおりものようだったのは^{たけ}たけから、^な菜の花の^{きいろ}きいろが^{きえて}きて、^{いちめん}いちめんには^{うみ}れた海のような^{あお}青い色がつづいている。この山の上から^{みえ}見おろす^{むら}村のながめはほんとうにうつくしい。

青い色がつづいているのはなんの色ですか。

1 青い海の色。

2 草の色。

3 麦の色。

4 村の青くしげった木の色。

5 菜の色。

(B)

テストその三 (三年 二五分
四年 二〇分)

れんしゅう

一 ごはんが すんで、 みんなで こたつに あたって おはなしを していた。おとうさんは まだ おかえりに ならない。あきらちゃんは、もう ねむって いる。

「おとうさんの おそいこと。」と ねえさんが しんぱいそうに いった。

おとうさんの おかえりを しんぱいしていることは どれで わかりますか。

- 1 ごはんが すんだ。
- 2 こたつに ぬたっていた。
- 3 あきらちゃんは ねむっている。
- 4 ねえさんが しんぱいそうにいった。
- 5 おはなしを していた。

二 あすは えんそくです。 すっかり したくを すませて、 まどから見ると ゆうやけで まっかです。 あすも 天気だ。 はやく あすになれば いいなあと おもいました。

この人は どんな気もちが いちばん つよいのでしょうか。

- 1 したくが できたのでうれしい。
- 2 えんそくが うれしく まちどおしい。
- 3 空がまっかで きれいだ。
- 4 まだ えんそくの したくが できない。
- 5 えんそくの おやつが たのしみだ。

一 ぼくの うちの ベスは、 とても 大きな 犬です。 二年まえ おじさんから うまれたばかりの こ犬を もらって そだてたのです。 びょうきにも ならないで、 大きく くなりました。 ぼくが 学校から かえると、 はしってきて、 うれしそうに おを ふりながら とびつきます。

この人は犬となかよしです。 なかよしのことが いちばんよくわかる のはどれですか。

- 1 とても 大きな犬です。
- 2 おじさんから もらいました。
- 3 うれしそうに おを ふりながら とびつきます。
- 4 びょうきにもならず 大きく くなりました。

5 うまれたばかりの こ犬。

二 春がきた。うれしいなあ。れんげの花がさいた。すみれの花がさいた。あの上で、ままごとを したいなあ。ころがって あそびたいなあ。

どんなきもちが いちばんよくわかりますか。

1 花のさくのが ふしぎだ。

2 ままごとはおもしろい。

3 ころがって あそぶといたい。

4 春がきたので うれしい。

5 あそぶのが おもしろくて うちへかえりたくない。

三 よしちゃん、ほくは いま 山のおじさんのところへ きて います。すずしいです。べんきょうが すむと、せみとりを します。あぶらぜみが いちばん たくさん います。ひょうほんを つくって よしちゃんにも あげます。すずむより

すずむは よしちゃんと なかよしです。それが いちばんよく わかるのは どれですか。

1 山はすずしいです。

2 ひょうほんを よしちゃんにも あげます。

3 山のおじさんのところへ きています。

4 せみとりをします。

5 あぶらぜみがいます。

四 こんどの おやすみに 東京のおじさんが おいでになる。きつと すばらしい おみやげだよ。きれいな 本かな。おもしろい お話も ききたい。しかし、それよりも もっと もっと たのしい ことは おじさんとこの まさおくんに あうことだ。

東京のおじさんがくるので いちばん たのしみにしていることは なんですか。

1 おじさんとこの まさおくんに あうこと。

2 おみやげ。

3 きれいな本。

4 おもしろい お話をきくこと。

5 おやすみがくこと。

五 わたしの おかあさんは、いつも ミシンを ふんで いらっしゃいます。夜も ^{よる}おそくまで しごとをして いらっしゃいます。わたしは、おかあさんが びょうきになるのが しんばいなので、「おかあさんが おやすみに ならなければ わたしも ねむらないよ。」という、「たのまれた日までに、どうしても 作らないと わるいのですよ。もう じきだから、あなたは おやすみ。」と、おっしゃいます。やくそくを だいじにまもる えらい おかあさんだと おもいます。

この文をつくった人が いちばん かんしんして いるのは どれですか。

1 からだの じょうぶな おかあさん。

2 ミシンの じょうずな おかあさん。

3 やくそくを まもる えらいおかあさん。

4 しごとの すきな おかあさん。

5 びょうきの おかあさん。

六 おやすすめは子すすめをだきしめました。 ^{こえ}声をしほってよびたてました。三ども四どもよびたてました。五ども六ども名をよびました。けれども、子すすめはつばさをうごかしません。目は二つともとじたきり、足はちちんでおなかにびったりよっていました。

おやすすめはどんなきもちでしょう。

1 子すすめをなんとかしてたすけてやりたい。

2 ねぼうの子すすめだからやく目をさまさせてやろう。

3 かわいい子すすめだからだきしめてやりたい。

4 子すすめはつんぼなのかみみがとおくてこまった。

5 なんていうことをきかない子すすめなこと。

七 子つばめたちがそだって、すからとびたつ日がきました。もうくちばしもきいろくありもせん。空のはれた五月の朝です。子つばめたちは、

みんなあたらしい白いチョコキにくろいがいとうです。おやつばめが、うれしそうに先にたつとぶと、子つばめたちもぱつととびだしました。

おやつばめはどんなきもちでしょう。

- 1 子つばめはかわいいなあ。
- 2 子つばめもひとりでとべるようになってうれしいなあ。
- 3 こんどは子つばめがはたらくのでわたしもらくになってうれしいなあ。
- 4 みんなでなかよくあそぼうよ。
- 5 子つばめの白いチョコキがきれいだなあ。

八 からすが^{にく}肉をくわえて木の^{えだ}枝にとまっていた。そこへきつねがきて、「からすさん、あなたの^{はね}羽はきれいだこと。きっとあなたの声もいいでしょうね。」

といった。からすがいばって「かあ」と一声なくと、くわえていた肉が下におちて、きつねにとられてしまった。

このおはなしはどういうことを、わたしたちにおしえているでしょう。

- 1 肉やたべものはだいにしなければいけない。
- 2 からすのようにいいこえがだせるとよい。
- 3 きつねのようにひとのものをとってはいけない。
- 4 いいきになっていばるとからすみたいにしくじる。
- 5 からすはきのどくだ。

九 なつかしい^{いえ}家、なつかしい^{みち}村の道です。おかあさんにたべさせたいと思っ^{おも}てうえたおいは、もうみてやることもできません。しばらくして、わたしはなきながら村はずれのとうげ道をのほってゆきました。あいにくだれにもあいません。村をふりかえるたびに、家が小さく小さくなってゆきます。

このおはしをかい人はどんなきもちでしょう。

- 1 ようやくなつかしい村にかえってきた。

- 2 おかあさんをさがしに出たけれどもみつからずかなしい。
 - 3 どうげの上から村を見おろしたら家が小さくならんできれいだ。
 - 4 おいもが大きくなったからおかあさんにたべさせてやりたい。
 - 5 おかあさんやすみなれた村とわかれるのがかなしい。
- 十 ヘンリーはだれの時計^{とけい}をなおしてやっても、お金^{かね}をとらなかつた。
- 「ヘンリーのところへ行くと、ただで時計がなおしてもらえる。」
というので、しまいには遠^{とほ}くの村からもたのみにくるようになった。
- 「ヘンリー、少しでもお金をとってもらわないとこまるよ。」
という人があると、にこにこしてこたえるのだった。
- 「おじさん、ほくはこの時計で、おもしろくあそびせてもらったのだから、ほくのほうからおれをあげたいくらいですよ。」
- ヘンリーはどんなきもちなのでしょう。
- 1 世の中のためにつくそう。
 - 2 ただ時計をなおすのがおもしろくてほかのものはいらない。
 - 3 ほくは時計やではないからお金はいらない。
 - 4 時計をなおしてお金をもうけよう。
 - 5 時計をなおすことがじょうずになって、はやくよい時計やになりたい。

新潟県教育研究所編

文章読解力検査

(A)

小学校5・6年用

姓名 (姓を先) 番 男女 小学校 年 組

出生日 昭和 年 月 日 検査日 昭和 年 月 日

得点			計	パーセント	偏差値	評定段階
一	二	三				

テストその一 (一七分)

〔練習〕

すずしい風がふくと、こいのほりが 元気よく おどります。

これは何についてかいたのですか。いちばん大じなことを さがしなさい。

- 1 風が ふいていること。
- 2 すずしいこと。
- 3 元気のよい こどものこと。
- 4 こいのほり のこと。
- 5 おどりのこと。

一 きのうち ただし君と 舟をつくりました。赤いほをはりました。池に
うかべると、すいすい はしました。

- 1 舟をつくって あそんだこと。
- 2 赤い ほのこと。
- 3 池のこと。

- 4 ただし君のこと。
- 5 ただし君と はしたたこと。

二 雪がふりだしました。高い空から、あとからあとからと、まいおりてきます。

見ているうちに、やねも野原もまっ白になりました。

- 1 さむいこと。
- 2 野原のこと。
- 3 やねのこと。
- 4 空のこと。
- 5 雪のこと。

三 ぼくは冬になると、よくかぜをひきます。それで、今年はちゅういしています。朝目をさますと、すぐにとびおきて、ふくを着かえます。学校からかえつた時や、運動やそうじのあとには、うがいをします。あつぎをしなくて運動します。そのため、今年は一度も

のなかには、どれをいれたらよいでしょう。

- 1 おなかをこわしません。
- 2 かぜをひきません。
- 3 はをいためません。
- 4 学校におくれません。
- 5 げがをしません。

四 汽車の時間がきたので、まちあい室は、だんだんにぎやかになってきます。にもつをしょった男の人、きれいなふくをきた女の人、ふくろをさげたおじいさんなどもはいつてきました。

- 1 にもつをしょった男の人のこと。
- 2 きれいなふくをきた女の人のこと。
- 3 ふくろをさげたおじいさんのこと。

4 汽車がきたこと。

5 まちあひ室が にぎやかになったこと。

五 一八一四年に、ドイツ人のケーニヒが、じょうきの力が動かすいんさつ機を發明しました。そのころ、新聞は、手で動かす機械ですっていましたが、このケーニヒの機械をつかうと、一時間に千百まいもすれました。これは、それまでの四倍も多くすれたのです。

1 新聞のできたのは一八一四年だということ。

2 むかしの新聞のすり方のこと。

3 新聞をするいんさつ機のこと。

4 ケーニヒの發明した いんさつ機のこと。

5 新聞は一時間に、何まいするかということ。

六 ポストにいた手紙は、郵便やさんが集めて、郵便局へもっていきます。それから汽車で、遠くにいる人のところへはこばれます。

1 ポストのこと。

2 遠くにいる人のこと。

3 手紙のこと。

4 郵便やさんのこと。

5 汽車のこと。

七 機械の發達は、たちまち、鉄と石炭の必要をよびおこした。石炭をほりだすためには、機械がなければならぬ。そして、機械を作るためには、鉄がなければならぬ。また、鉄鑛をほりだし、それを鉄にするには、石炭がなければならぬ。さらに、その機械を動かすには、石炭が必要になつた。

1 機械の發達は鉄と石炭を必要とすること。

2 機械がないと石炭がほれないこと。

3 機械を動かすには石炭が必要であること。

4 鉄鑛を鉄にするには石炭があること。

5 機械を作るには鉄があること。

八 ボウボウと鳴くのを、よくだれでも、フクロウだと思っているらしい。

が、あれはアオバズクといって、フクロウの四分の一ぐらいの大きさしかない。青葉のころ、日本へわたってくるミミズクだから、アオバズク、ズクとはミミズクということだ。わが国ですを作って、子供を生む。そうして秋になると、親鳥も^{おやどり}子供も^{こども}、南へ去ってしまう。

1. フクロウのこと。
2. アオバズクのこと。
3. 鳥の名はまちがいがやすいこと。
4. アオバズクの子供のこと。
5. わたり鳥のこと。

九 電話をとりつけないという皆さまの申込みは、もう五〇万もたまっていますが、今年の資金では、その五分の一でさえもとりつけられません。そこで、わたしたちは、一本でも電話をふやす方法として、一八〇〇円でとりつけられた電話を、四月から四三〇〇円にしたのですが、それでも、皆さまの申込みにはまにあいません。そこで、こんどは別に、電話をとりつけるお金の一部を出していただくことになりました。この方法によりまして、いつでも電話がひけるのでなく、工事上さわりのないこと、申込み順によることなどは、いままでと同じですが、わたしたちは、「すぐとりつけられる電話」をめざして努力しますから、お力ぞえねがいます。

資金=ここでは電話をとりつけるためにいるお金のこと。

この広告は、どんなことを知らせようとしたものですか。

1. 電話をとりつけるには、お金がたくさんかかること。
2. 電話をとりつけるお金を上げたが、申込みの全部をうけつけるわけにはいかないこと。
3. 新しく電話をとりつける人には、そのお金の一部をだしてもらふことにしたこと。
4. 電話をすぐとりつけられるようにするから、しばらくまってほしいこと。
5. 電話をとりつけないという申込みが多すぎること。

十 「はえ」は、うるさくても、人をさしたりないたりしないから、人に苦しみを与^{あた}えることは少ないけれども、「か」は人をさし、またなくので、そのことだけについていえば、「はえ」よりも、たしかにうるさくいやな害虫^{がいちゆう}です。夏のあいだに、人がかのために仕事のじやまをされることは、大したものです。

- 1 「はえ」は うるさくても、人をさしたりしないこと。
- 2 人は「か」のために仕事のじやまをされること。
- 3 「はえ」は うるさいが、「か」よりましだということ。
- 4 「か」は「はえ」よりもうるさい害虫であること。
- 5 「はえ」も「か」も両方とも、いやな害虫であること。

テストその二 (一七分)

一 川の上を、すすしい風がふいています。空ではお星さまが、お話でもしているように、ぴかぴかが光っています。

お話をしているように見えるのは、何ですか。

- 1 川
- 2 風
- 3 空
- 4 お星さま
- 5 ほたる

二 「まさお。」とよばれて、おとうさんのおへやへ行きました。おとうさんの机^{つくえ}の上には、新聞がありました。おとうさんは、朝からはがきを書きつけていらっやいます。

まさおがおへやへ行った時、おとうさんは、何をしていたか。

- 1 新聞をよんでいた。
- 2 はがきを書いていた。
- 3 本をよんでいた。

4 「まさお。」とよんだ。

5 おへやでねていた。

三 ぼくは木で車をつくりました。くるくるまわる車です。ただし君はボール紙で、自動車のかたちをきりぬきました。よし子さんは、^{うんてんしゆ}運転手とお客をつくっています。もうじきできあがります。はやくできるのが、たのしみです。

三人は、何をつくっているのでしょうか。

1 汽車

2 ていしゃば

3 自動車

4 馬車

5 水車

四 けさから 風が強くふきだした。教室にはこりがはいて、休み時間ごとに、ぬれぞうきんで机をふいた。

きょうは五人休んだ。かぜをひかないようにと、先生からご注意があった。よくうがいをしようと、皆で話しあった。

先生の注意はどれでしたか。

1 風が強くふいてきたこと。

2 ぬれぞうきんで机をふくように。

3 よくうがいをするように。

4 五人休んでしまった。

5 かぜをひかないように。

五 ローレンス先生のおとなりに住んでいられるアレンさんは、^{いしや}お医者さんでしたが、今は仕事をむすこさんにゆすって、毎日庭でばらの手入れをしたり、静かなへやで本を読んだりしています。

ばらの手入れをしたり、本を読んだりしている人はだれですか。

1 アレンさん。

2 ローレンス先生のむすこ。

3 アレンさんのむすこ。

4 ローレンス先生。

5 アレンさんのとなりの人。

六 「みつばちさん、今日わ。」

「やあ、ちょうちゃん、今日わ。」

「あなたは、いつもはねをぶんぶんならして、いそがしそうですね。」

「ぼくは、からだの大きさにくらべて、はねが小さいので、はやくはねを動かさないと、とべないんだよ。」

「まあ、そうなの。わたしたちは、いじわるなものに見つからないように、大きなはねで、そっととぶのよ。」

ちょうちゃんのはねは、どうですか。

1 からだの大きさにくらべて小さい。

2 まっ白できれいだ。

3 ぶんぶんいそがしそうだ。

4 いじわるなものに見つからないように、そっととぶ。

5 はねをはやく動かしてとぶ。

七 つきみ草に 明かるい 川のどて、

風もふかない しすかな 夕ぐれだ。

つきみ草が 川のそこに、

あざやかな色で しすんでいる。

どんなところに、つきみ草がさいていますか。

1 川のそこ。

2 どての下の草原。

3 川のどて。

4 しすかな夕ぐれの小道。

5 しすんでいる。

八 この間まで、菜の花と麦とで、黄色と青の美しいおりものようだった畑から、菜の花の黄色がきえて、いちめん、晴れた海のような青い色がつづいている。この山の上から見おろす村のながめは、ほんとうに美しい。

青い色がつづいているのは、何の色ですか。

- 1 青い海の色
- 2 草の色
- 3 茶の色
- 4 村の青くしげった木の色
- 5 麦の色

九 風向きでも天気を知ることができる。むかしは旗^{はな}などで、風向きを知ったが、けむりもよい目やすになる。浅間山^{あさまやま}ふきんでも、けむりが東になびくと晴、西になびくと雨といている。しかし、東風のときでも、天気が変わらないことがある。つまりこの方法は、高い雲のようすをみることがたいせつで、のときでも、巻き雲などが西に流れているとき、天気はつづくものである。

この文の のなかに中には、次のうちのどれをいれたらよいでしょう。

- 1 北風
- 2 西風
- 3 東風
- 4 つよい風
- 5 よわい風

十 ラジオは耳だけにたよる点では、電話ににているが、相手が大勢という点では、むしろ、目に訴^つたえる新聞ににている。しかし、ちがったところも少くない。これをよくしらべてみることによって、ラジオのもつ特質も明らかになってくると思うから、次に書いてみる。

「次に書いてみる。」とありますが、何をかくのでしょうか。

- 1 ラジオの特質。
- 2 ラジオが電話や新聞とにている点。
- 3 ラジオが新聞とにている点。
- 4 ラジオが新聞とちがっている点。
- 5 ラジオが電話や新聞とちがっている点。

(B)

テストその三 (その三)

一 ぼくのうちのペスは、とても大きな犬です。二年前、おじさんから生まれたばかりのこ犬をもらって、そだてたのです。病気にもならないで、大きくなりました。ぼくが学校からかえると、走ってきて、うれしそうにおをふりながら、とびつきます。

この人と犬はなかよしです。それがいちばんよくわかるのはどれですか。

- 1 とても、大きな犬です。
- 2 おじさんからももらいました。
- 3 うれしそうにおをふりながらとびつきます。
- 4 病気にもならず大きくなりました。
- 5 生まれたばかりのこ犬。

二 春がきた。うれしいなあ。れんげの花がさいた。すみれの花がさいた。あの上で、ままごとをしたいなあ。ころがって、あそびたいなあ。

どんな気持ちがいちばんよくわかりますか。

- 1 花のさくのがふしぎだ。
- 2 ままごとはおもしろい。
- 3 ころがってあそぶといたい。
- 4 春がきたので、うれしい。
- 5 あそぶのがおもしろくて、うちへかえりたくない。

三 わたしのおかあさんは、いつもミシンをふんでいらっしやいます。夜もおそくまでしごとをしていらっしやいます。

わたしは、おかあさんが病気になる心配なので、「おかあさんがお休みにならなければ、わたしも眠らないよ。」というと、「たのまれた日までに、どうしても作らないと悪いのですよ。もうじきだから、あなたはお休み。」とおっしゃいます。約束をだいじにまもる、えらいおかあさんだと思います。

この文をつくった人が、いちばん感心しているのはどれでしょう。

- 1 からだのじょうぶな おかあさん。
- 2 ミシンのじょうずな おかあさん。
- 3 やくそくをまもる えらいおかあさん。
- 4 しごとのすきな おかあさん。
- 5 病気の おかあさん。

四 まさおは、先生から本をかりて、大よろこびでした。ところが、夜中に雨が降って、本はびしょびしょにぬれました。まさおは、こまっこまてしまいましたが、新しいのを買ってかえすお金がありません。まさおは先生にあやまりました。そして、三日の間、庭の草をかったり、まきをわったりして、はたらかせてもらいました。三日目の夕方、先生は、まさおにその本をくださいました。

先生はまさおのことを、どう思ったのでしょうか。

- 1 正直でかんしんな子だ。
しょうじき
- 2 びんぼうで、きのどくな子だ。
- 3 よくはたらく子だ。
- 4 本のすきな子だ。
- 5 草とりやまきわりの じょうずな子だ。

五 子つばめたちが、そだってすからとび立つ日がきました。もう、くちばしも黄色くありません。空の晴れた七月の朝です。子つばめたちは、みんな新しい白いチョッキに、黒いがいとうです。親つばめが、うれしそうに先にたつてとぶと、子つばめたちも、ぱつととびだしました。

おやつばめは、どんな気持でしょうか。

- 1 子つばめはかわいいなあ。
- 2 子つばめもようやくひとりだとべるようになってうれしいなあ。
- 3 こんどは子つばめがはたらくので、わたしもらくになってうれしいなあ。
- 4 みんなで なかよくあそぼうよ。
- 5 子つばめの新しいチョッキがきれいだなあ。

六 からすが肉をくわえて、木の枝にとまっていた。そこへ、きつねが来て、

「からすさん、あなたの羽はきれいだこと。きっと、あなたの声もいいでしょうね。」といった。からすはいぼって、「かあ。」と一声なくと、くわえていた肉が下へ落ちて、きつねにとられてしまった。

このおはなしは、どういうことを、私たちにおしえているのでしょうか。

- 1 肉やたべものは、大じにしなければならない。
- 2 からすのように、いい声がだせるといい。
- 3 きつねのように、人のものをとってはいけない。
- 4 いいきになっていぼると、からすみみたいにしくじる。
- 5 からすはきのどくだ。

七 なつかしい家、なつかしい村の道です。おかあさんに食べさせたいと思っ
てうえたおいもは、もうみてやることもできません。しばらくして、私は
泣きながら、村はずれのとうげ道をのぼって行きました。あいにく、だれ
にもあいませぬ。村をふりかえるたびに、家が、小さく小さくなつていき
ます。

この文を作った人は、どんな気持なのでしょうか。

- 1 ようやくなつかしい村にかえってきた。
- 2 おかあさんをさがしに出たけれども、見つからずさびしい。
- 3 とうげの上から村を見おろしたら、家が小さくならんできれいだった。
- 4 おいもが大きくなったら、おかあさんに食べさせてやりたい。
- 5 おかあさんや、すみなれた村と、別れるのがかなしい。

八 ヘンリーは、だれの時計をなおしてやっても、お金をとらなかつた。「ヘ
ンリーのところへ行くと、ただで時計がなおしてもらえる。」というので、
しまいには、遠くの村からもたのみにくるようになった。「ヘンリー、少
しでもお金をとってもらわないとこまるよ。」という人があると、にこに
こして答えるのだった。「おじさん、ぼくはこの時計で、おもしろく遊ば
せてもらったのだから、ぼくの方から、お礼をあげたいくらいですよ。」

ヘンリーは、どんな気持なのでしょうか。

- 1 世の中のためにつくそう。

- 2 ただ時計をなおすのがおもしろくて、ほかのものはいらぬ。
 - 3 ぼくは時計屋ではないから、お金はいらぬ。
 - 4 時計をなおして、お金をもうけよう。
 - 5 時計をなおすことが上手になって、早くよい時計屋になりたい。
- 九 おながざるは、年をとって目が弱くなってきましたが、人間たちの話によると、その不幸さはさほど大したことではなく、めがねさえかければよいということでした。そこで、さるは、半ダースほどのめがねを手に入れました。そして、それをいろいろといじりまわし、あたまのてっぺんへおしつけたり、かいでみたり、なめてみたりしました。が、どうしてみても、めがねはなんの役も^{やく}しませんでした。「ちえっ、^{ちくしやう}畜生め！」とさるは申しました。「人間の、いいかげんなでたらめなどきいているやつは、ばかなんだ。めがねがどうのこうのって、うそばかりつきやがって。そんなもの、^{かみ}髪の毛一本の役もするもんか。」おながざるは、そこで、いまいましさと口おしきから、力まかせにめがねを石に投げつけました。めがねは、こなみじんになって、ちかちかと光っただけでした。

この話は、どんなことをいおうとしているのですか。

- 1 目の力が弱っても、めがねをかければよい。
 - 2 人間はいいかげんのことばかりいうものだ。
 - 3 人間とさるとはやはりちがう。
 - 4 ばかもものは、自分のまがいがわからなくて、ひとのことを悪くいう。
 - 5 さるでもだまされれば^{はら}腹をたてる。
- 十 ある王さまのところに、^{あわ}栗つぶを空になげては、それを針のめどにくぐらせるという名人^{めいじん}があらわれた。いよいよ、^{えんぎ}演技がおわると、どうか、たくさんのごほうびをいただきたいと、おねだりしたことは、もちろんである。すると、王さまはただ、「栗^{あわ}二三升^{じやう}あげよう。こういうむずかしい技は、たえず練習しないとわすれてしまうからな。」と言われたきりだった。

演技=ここでは、栗つぶをはりのめどにくぐらせることを大ぜいの人の前でやってみせること。

